

令和5年度(2023年度)

入学者選抜要項

入学者選抜要項について

本要項は、令和5年度(2023年度)入学者選抜の概要を示したものです。
各選抜の詳細については、順次発行する「学生募集要項」により確認してください。

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症への対応のため、やむを得ず、本要項記載の内容について、
試験期日や選抜方法等を変更する緊急措置を実施する場合があります。
その場合は、本学ホームページ(<https://www.oita-u.ac.jp/>)等において周知します。

令和4年(2022年)7月



国立大学法人

大分大学

令和5年度（2023年度）入学者選抜における主な変更点

【医学部先進医療科学科（仮称）の設置、理工学部の改組、教育学部及び経済学部 の募集人員の変更等】

大分大学では令和5年4月に、医学部先進医療科学科（仮称）の設置、理工学部の改組、教育学部（初等中等教育コース）及び経済学部の入学定員及び選抜種別ごとの募集人員の変更を計画しています。これらの内容は、現時点で計画中のものであり、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果等により、今後変更になる可能性があります。
確定後の内容については、「学生募集要項」で必ず確認してください。

【教育学部】

- 初等中等教育コースにおける募集人員の変更（※特別支援教育コースは変更なし）

【変更前】

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	総合型選抜
		前期日程	後期日程		
初等中等教育コース	125	65	20	30	10



【変更後】

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	総合型選抜
		前期日程	後期日程		
初等中等教育コース	140	72	23	35	10

- 学校推薦型選抜初等中等教育コースにおける「大分の小学校教員志望枠（仮称）」の新設に伴う推薦要件の変更（※特別支援教育コースは変更なし）

大分県を中心とした地域の、小学校教員を主とした学校教員を目指す者の枠として、「大分の小学校教員志望枠（仮称）」を新設するとともに、推薦要件を変更します（※詳細は57ページを参照してください）。

- 一般選抜における検査方法の変更

教育学部では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に講じて入学者選抜を安全かつ確実に実施するために、一般選抜（前期日程、後期日程）におけるグループディスカッションを取り止めてペーパーインタビューを実施することとしました。教育学部のアドミッションポリシー（3～5ページ）で一般選抜の「グループディスカッション」に言及した箇所は、今年度については「ペーパーインタビュー」に読み替えます。ペーパーインタビューの配点等、詳細は32、33、43ページを参照してください。

- 学校推薦型選抜における検査方法の変更

教育学部では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に講じて入学者選抜を安全かつ確実に実施するために、学校推薦型選抜における面接試験ではグループディスカッションを取り止め、個人面接のみを行うこととしました。教育学部のアドミッションポリシー（3～5ページ）で学校推薦型選抜の「グループディスカッション」に言及した箇所は、今年度については削除した形で読み替えます。個人面接の配点等、詳細は59ページを参照してください。

【経済学部】

●募集人員の変更

【変更前】

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	総合型選抜
		前期日程	後期日程		
経済学科	290	120	80	普通推薦 45 商業推薦 20	英語資格 5 簿記資格 15 課題探究 5
経営システム学科					
地域システム学科					
社会イノベーション学科					



【変更後】

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜	総合型選抜
		前期日程	後期日程		
経済学科	270	120	65	普通推薦 45 商業推薦 10	英語資格 5 簿記資格 15 課題探究 10
経営システム学科					
地域システム学科					
社会イノベーション学科					

【医学部】

●医学部医学科の募集人員

※現在の医学部医学科総合型選抜募集人員 25名（一般枠 22名、地域枠 3名）

地域枠定員については、文部科学省等に地域枠に係る臨時定員増の申請を行う予定です。承認された場合及び承認されなかった場合の募集人員は、それぞれ下記のとおりとします。

なお、地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合でも、大分県における医師確保の観点から、一般選抜（前期日程）一般枠募集人員を55名から45名に、総合型選抜地域枠募集人員を3名から13名に変更することとします。

審議結果（令和4年（2022年）10月下旬～11月上旬を予定）が分かり次第、本学ホームページで発表します（※詳細は26、36、72ページを参照してください）。

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認された場合の募集人員】

【現在の募集人員】

総合型選抜	一般枠 22名 地域枠 3名	計 25名
一般選抜 (前期日程)	一般枠 55名 地元出身者枠 10名	計 65名



総合型選抜	一般枠 22名 地域枠 13名	計 35名
一般選抜 (前期日程)	一般枠 55名 地元出身者枠 10名	計 65名

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合の募集人員】



総合型選抜	一般枠 22名 地域枠 13名	計 35名
一般選抜 (前期日程)	一般枠 45名 地元出身者枠 10名	計 55名

●先進医療科学科（仮称）の新設

新たな学科として、先進医療科学科（仮称）を設け、一般選抜前期日程及び後期日程による選抜を実施します（※詳細は36、37、45ページを参照してください）。

・令和5年度（設置）

先進医療科学科<35名>

	入学定員	一般選抜	
		前期日程	後期日程
生命健康科学コース	20	15	5
臨床医工学コース	15	11	4

「医学部先進医療科学科」設置計画について

設置の主旨

高齢層の急増と若年層の減少により、医療・福祉系人材が不足する医療現場では、ゲノム・再生医療の生命科学分野、AI・ロボティクスやDXを活用した先進的な医療技術・医療機器の導入が進んでいますが、近年の急速な医学・医療技術の進歩や内外の環境の激変に伴い、医学・医療の基盤*を研究し、新たな知見を創造する人材の不足がより深刻化しています。

それらを解決するため、医学と理工学、生命科学、医療マネジメントの領域を超えた幅広い知識や技術及び研究力を持つ融合人材の育成と進化した医工連携の構築を目標とし、医学・医療に精通した研究者や病院・医療産業界で活躍できる人材を育成するため、先進医療科学科を設置します。

※「医学・医療の基盤」とは、診断に必要な検査法や検査機器、治療に必要な手技や装置の知識や技術とその学問を意味します。

学科の概要

先進医療科学科では、先端医療技術を学び、医学・医療の基盤を支え次代のヘルスケアを担う医学・医療に精通した研究者や病院・医療産業界で活躍する人材を養成します。

本学科では、大学病院で多職種によるチーム医療や先端医療を学び、医学部での研究室配属や卒業研究により研究の手法や科学的思考、日進月歩する医療に対応し続けるリサーチマインドを涵養します。

コースの概要

本学科は、生命健康科学コース、臨床医工学コースの2コースで構成されます。

生命健康科学コースでは、人の生命現象、健康と疾病及び臨床検査に関する広範な知識と技能を身につけ、生命医科学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる人材を養成します。

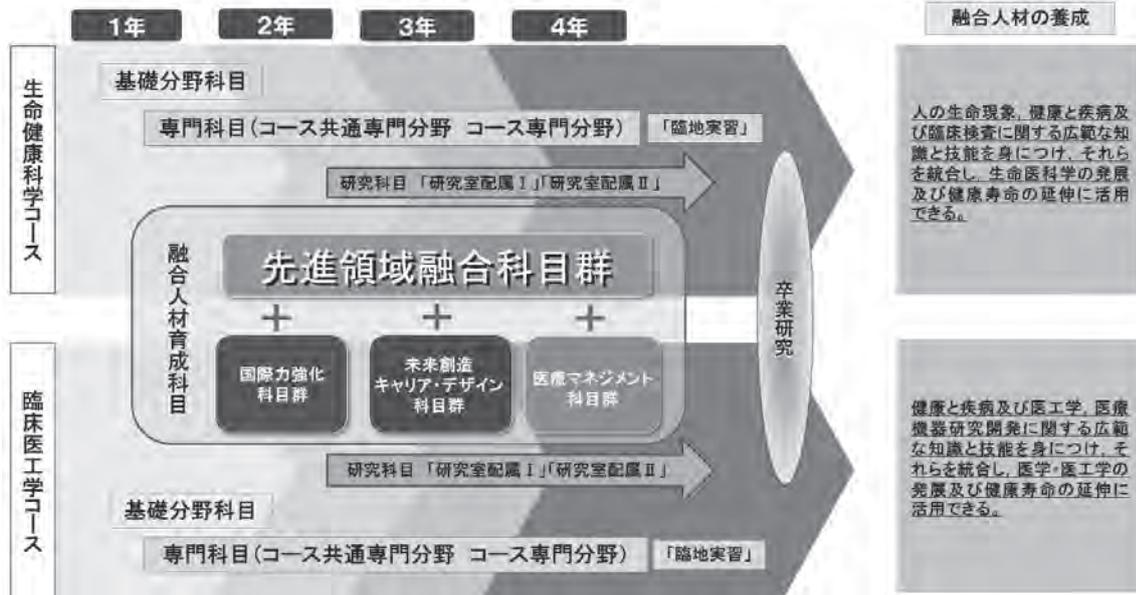
特定の授業科目の履修により、臨床検査技師の国家試験受験資格を得ることも可能です。

臨床医工学コースでは、健康と疾病及び医工学、医療機器研究開発に関する広範な知識と技能を身につけ、医学・医工学の発展及び健康寿命の延伸に活用できる人材を養成します。

特定の授業科目の履修により、臨床工学技士の国家試験受験資格を得ることも可能です。

教育課程の特色

本学科では、2コースそれぞれの領域の基本的な専門性を担保する教育課程をおきつつも、コースを横断した融合人材育成科目として「先進領域融合科目群」「国際力強化科目群」「未来創造キャリア・デザイン科目群」「医療マネジメント科目群」を配置し、融合人材能力、国際対応力、先進的な知識、医療マネジメントに関する知識・能力を修得することが可能なカリキュラムを編成しています。



【理工学部】

● 2学科から1学科（理工学科）への再編

理工学部は、2学科8コースから1学科9プログラムへ下記のように再編されます。それに伴い、学部入学定員は下記のとおり変更されます。また、各プログラムの募集の目安は次ページのようにになります。

・令和4年度（募集停止）

理工学部<385名>

学科		コース	
名称	入学定員	名称	募集人員
創生工学科	235	機械コース	75
		電気電子コース	75
		福祉メカトロニクスコース	35
		建築学コース	50
共創理工学科	150	数理科学コース	15
		知能情報システムコース	65
		自然科学コース	15
		応用化学コース	55



・令和5年度（設置）

理工学部<355名>

学科	入学定員	プログラム
理工学科	355	数理科学プログラム
		知能情報システムプログラム
		物理学連携プログラム
		電気エネルギー・電子工学プログラム
		機械工学プログラム
		知能機械システムプログラム
		生命・物質化学プログラム
		地域環境科学プログラム
		建築学プログラム

※一般選抜の募集は学科一括で行います。各プログラムの一般選抜の募集の目安数については次ページを、総合型選抜、学校推薦型選抜、特別選抜（帰国生徒選抜、私費外国人留学生選抜）の募集人員は26、75、78ページを参照してください。

※入学後のプログラム配属及び教育カリキュラムの概要については27ページを参照してください。

● 一般選抜前期日程及び後期日程における選抜方法・選抜体制の変更

学科再編、プログラム制への移行に伴い、一般選抜前期日程及び後期日程では、学科単位の一括募集となります。合否判定は、受験者を成績順に並べ、上位より志望プログラムに仮配属を行います。募集の目安は次ページのとおりです。なお、合否判定及びプログラム仮配属についての詳細は27ページを参照してください。

※総合型選抜、学校推薦型選抜、特別選抜はプログラムごとに選抜を行います。募集人員については26、75、78ページを、合否判定については56、65、75、79ページを参照してください。

プログラム	募集の目安	
	前期日程	後期日程
数理科学プログラム	13	
知能情報システムプログラム	39	9
物理学連携プログラム	10	
電気エネルギー・電子工学プログラム	46	9
機械工学プログラム	42	10
知能機械システムプログラム	16	6
生命・物質化学プログラム	37	7
地域環境科学プログラム	13	
建築学プログラム	28	8
合計	244	49

※数理科学プログラム、物理学連携プログラム、地域環境科学プログラムでは後期日程受験者のプログラム仮配属はありません。

- 建築学プログラムにおける学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）の新設
詳細は60、61ページを参照してください。

理工学部再編について

再編の理念:イノベティブな技術革新のために

技術革新を実現するためには、その課題のもたらす「現象・状況を分析・解析」し、「根源的な要素やその原理・法則を確認・同定」した上で、「解決するための方策を、適用される局面を考えながら総合的・包括的に構築・実装」する過程が求められます。特に革新的な展開が求められる現代、そして、これからの科学技術開発では、この関係性がより一層密接に結びつくことが必要になります。理工学部は、2学科から1学科（理工学科）に再編され、「理学」と「工学」の両学問体系の強い連携・協働のもとに教育研究を推進します。

養成する人材像:スペシャリストとしての高い専門性と分野間連携能力

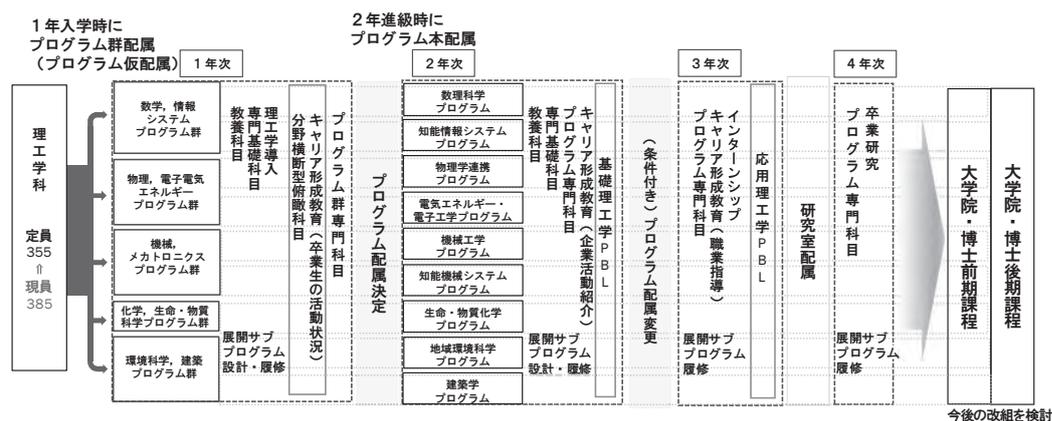
養成する人材像として、専門分野の専門性を糧に、思考力・判断力・俯瞰力・表現力を基盤に、幅広い教養と、公共性・倫理性を保持し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力をもって社会を改善していく資質が不可欠であると考えています。そのために、次の2つの方針のもと、人材を養成します。

- ・理工学分野で活躍するに当たって、よって立つ基盤としての主分野での専門能力の着実な定着
- ・輻輳した現代の課題に、総合的な視点から分野を越えた連携による課題解決に貢献、主導できる能力の醸成

教育プログラムと教育課程

理工学分野での専門的人材養成のために、9つの教育プログラムにより、それぞれの基盤科学技術分野での専門人材育成のためのカリキュラムを構築します。1年次の基礎教育段階においては、関連性の深いプログラムによる群を構成し、群の共通基盤となる数学・物理・自然科学等にかかる理学的な基礎教育から始めます。その後の専門分野での教育においても科目共有等によりプログラム連携に基づく理工融合教育を実施します。

- 理工学分野で活躍するに当たって、よって立つ基盤としての主分野での専門能力の着実な定着
- 輻輳した現代の課題に、総合的な視点から分野を越えた連携による課題解決に貢献、主導できる能力の醸成



プログラム配属決定・変更
 1年・2年修了時のプログラム配属変更については、学業成績をもとに、当該プログラムの募集の目安の10%程度を考える。
 2年修了時の配属変更については、加えて、当該プログラムの修了について展開サブプログラム履修等により4年で修了可能であることを原則とする。

9つの教育プログラム

数理科学プログラム

科学の基盤としての数理的知識・推論能力を身につけ、数学的方法の活用を通じて、理工学の諸分野と連携して、社会の諸課題の解決に寄与できる人材を養成します。

#数学 #応用数学 #データサイエンス

知能情報システムプログラム

情報科学を基礎とし、計算機科学を駆使して現代社会の情報化を推進し、IoTによるデジタル化やAI・データ科学の技術を活用して、新たな知的ITシステムのデザイン・構築に貢献できる人材を養成します。

#情報科学 #プログラミング #AI #IoT

物理学連携プログラム

力学、電磁気学などの基礎科目を通じて物理の原理・法則を学び、流体力学などの応用科目や卒業研究を通じて未知の課題に対する探求力を養い、物理学を基盤にして科学技術の進展に貢献する人材を養成します。

#理論物理 #実験物理 #シミュレーション物理

電気エネルギー・電子工学プログラム

数学・物理と電気電子工学を融合的に学び、電気エネルギーと電子情報工学の分野から持続可能な未来社会の構築に寄与できる、創造性と専門性を備えた人材を養成します。

#省エネ電気・電子機器 #省資源マテリアルプロセス #半導体・ナノテク #情報通信

機械工学プログラム

最先端の機械工学の知識を基礎に、脱炭素社会実現のためのエネルギー変換機器や、高効率で環境負荷の低い低炭素型機械の設計・開発ができる人材を養成します。

#ものづくり #ロボティクス #機械エンジニア #システム制御

知能機械システムプログラム

機械工学、電気工学、制御工学、情報工学などを広く学び、ロボティクス、サイバネティクスなどのメカトロニクス分野に関する知見を身につけ、Society5.0を迎える社会の実現を支える技術の開発に貢献できる人材を養成します。

#ロボット #メカトロニクス #福祉工学 #医工連携 #人間理解

生命・物質化学プログラム

基礎化学の知識と物質・材料科学及び生物化学の専門知識・技術を有し、それらを活用する能力をもち、地域・企業から地球環境に亘るさまざまな課題解決に生かし、脱炭素・持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成します。

#材料科学 #食品化学 #食品工学 #エネルギー #カーボンニュートラル

地域環境科学プログラム

地質・水環境・生態系を含む地域環境、地球規模での気象状況など、幅広い視点からの環境理解に基づき、防災・減災、都市・地域環境、土木の観点も思考し、持続可能な地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。

#環境保全 #気象・海洋 #都市・地域環境 #防災・減災

建築学プログラム

最先端の建築構造・材料施工・建築環境・設備と建築設計等を学び、安全・安心で環境と調和のとれた持続可能な建築とまちづくりに貢献できる人材を養成します。

#サステナブル建築 #空間デザイン #耐震システム #環境シミュレーション

目 次

	ページ
大分大学 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）	2
入学者選抜実施日程	25
募集人員	26
一般選抜入学者選抜方法等	28
① 出願資格	28
② 志願学部・学科等	28
③ 令和5年度（2023年度）入学者選抜の実施教科・科目等及び配点	30
◎大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項	42
学校推薦型選抜募集人員	51
学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない） （経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部）	52
学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す） （教育学部、理工学部）	57
総合型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない） （経済学部、理工学部）	62
総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す） （教育学部、医学部、福祉健康科学部）	66
帰国生徒選抜	75
社会人選抜	76
私費外国人留学生選抜	78
障がいのある者等の事前相談	80
災害で被災した者等の入学検定料等の免除及び修学上の特別な配慮について	80
入試過去問題の使用について	80
令和4年度（2022年度）大分大学入学者選抜試験実施状況	81
募集要項（願書）・大学案内の請求方法・インターネット出願受付（一部）	84

大分大学 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

基本理念

人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することです。

教育の目標

1. 学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成します。
2. ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成します。
3. 高い学習意欲をもち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成します。

求める学生像

1. 幅広く、より深く学ぶための基礎的能力をもっている人
2. 論理的に考え、文章や口頭で他者に伝えることができる人
3. 知識を組み合わせ活用したり、多面的な観点から物事を考えたりすることができる人
4. 思いやりの心をもち、他者と協力して行動することができる人
5. 地域社会や国際社会に貢献しようとする意欲をもっている人
6. 知的好奇心や主体的に学ぶ意欲をもって、目的に向かって努力できる人

大分大学教育学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

基本理念

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、特別支援学校教員の養成を行うことです。

教育の目標

各教科等の指導内容と指導方法についての確かな専門的知識の上に、新しい時代を担うための子どもたちの学ぶ力を育む実践的指導力を持ち、隣接する校種を見通しながら教育現場で生起する諸課題に適切に対応できる小学校教員、特別支援学校教員の養成を行います。

求める学生像

1. 基礎学力を有し、小学校教員、特別支援学校教員、及び隣接校種である中学校教員、幼稚園教員として子どもたちの教育や支援に取り組む意欲と情熱がある人
2. 学校教育に深い関心があり、大分県を中心とした地域社会への貢献ができる人
3. 物事を多面的に分析し、自ら課題を見つけ、他者と協働して課題解決ができる人
4. 子どもや他者とのコミュニケーションが積極的にでき、相互理解を深めようとする人

入学者選抜の基本方針

教育学部では、多様な観点から受験者の学力や資質をみるため、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜及び総合型選抜を実施し、「求める学生像」にそって学生を選考します。

・一般選抜（前期日程）

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個別学力検査を課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では教科の試験とグループディスカッションを課しています。

・一般選抜（後期日程）

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個別学力検査を課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では小論文とグループディスカッションを課しています。

・学校推薦型選抜

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個人面接及びグループディスカッションを課しています。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個人面接及びグループディスカッションでは提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

・総合型選抜

総合的な学力及び教科の能力をみるため、大学入学共通テストと個人面接及び教科（音楽、美術、保健体育、技術、家庭）の試験を課しています。大学入学共通テストは3～4教科4～5科目とし、個人面接及び教科の試験では提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

各選抜試験で重視する力や観点

入試区分	検査項目	学力の3要素			求める学生像		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・協働性	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心	
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	○	○			
		教科の試験	○	○			
		グループディスカッション(調査書)		○	○	○	○
	後期日程	大学入学共通テスト	○	○			
		小論文		○			○
		グループディスカッション(調査書)		○	○	○	○
学校推薦型選抜	大学入学共通テスト	○	○				
	個人面接 グループディスカッション(調査書) (志望理由書) (推薦書)		○	○	○	○	
総合型選抜	大学入学共通テスト	○	○				
	教科の試験	○	○		○		
	個人面接(調査書) (自己推薦書) (活動報告書)		○	○	○	○	

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、修得していることを前提として行われます。このような点から、一般選抜及び学校推薦型選抜において課している大学入学共通テストの教科・科目についてはその基礎を十分に理解し、修得するとともに、応用的な力を養っておくことが必要です。総合型選抜においては、これらの教科・科目の試験すべてを課しているわけではありませんが、そこで受験しなかった教科・科目も大学入学までに十分に理解し、修得していることが望まれます。

また、教科・科目の知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力等の学力や、「求める学生像」に示した資質を高めておくことが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、修得しておくべき科目は国語総合の他、国語表現、現代文、古典に関する科目です。

地理歴史、公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を修得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

- 数** **学**：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を修得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、修得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。
- 理** **科**：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。
- 外国語（英語）**：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。
なお、修得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

大分大学経済学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

教育理念・目標

本学部は、経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することをめざしています。

こうした人たちが今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するためには、基礎的能力が不可欠です。こうした能力を身につけることは、社会や経済の変化に対する適応力を高めるとともに、創造性を発揮するうえでの基盤になると考えています。また、実社会で活躍するうえで求められる実践力を身につけるためにも基礎的能力が重要です。そこで、学生の基礎的能力を高めることを本学部の教育目的とします。

この目的を達成するために基礎学力を伸ばすことのできる多様な授業、カリキュラムを編成するとともに、少人数教育に基づいたきめ細かな指導によって、論理力、表現力、開かれたコミュニケーション能力や共生する力を有する人材を養成します。同時に、国際化、情報化などに対応できる能力も育成します。

求める学生像

本学部は、経済社会の諸問題に関心をもつ人に対して、その基礎的能力を高めることを教育の目的としています。

したがって、本学部に入学者は、経済社会への関心や基礎学力を有すると同時に、自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲をもつ学生であってほしいと考えています。特に、いきいきとした好奇心をもち続けられる人、しっかりした自分をもち自己表現ができる人、そして、バイタリティーあふれる人を本学部は求めています。卒業後の進路として、次のような目標をもっている人が入学することを歓迎します。

- ・金融界で活躍することをめざす人（たとえば銀行、保険会社、証券会社の仕事などをめざす人）
- ・産業界で活躍することをめざす人（たとえばメーカー、商社、サービス業の仕事やベンチャービジネスの起業などをめざす人）
- ・公務に携わることをめざす人（たとえば公務員、国税専門官、裁判所職員や警察などの仕事をめざす人）
- ・会計や税務、法務に携わることをめざす人（たとえば公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、司法書士などをめざす人）
- ・教育や研究に携わることをめざす人（たとえば高校教員、事業コンサルタントやシンクタンク研究員、また大学院進学をめざす人）
- ・国際社会で活躍することをめざす人（たとえば国際公務員や海外ボランティア、また外国企業で働くことをめざす人）
- ・地域社会で活躍することをめざす人（たとえば県庁・市町村役場やマスコミ、病院、福祉施設、NPO・NGO、ボランティア組織、地場産品を扱う6次産業などで働くことをめざす人）

《各学科の特色》

本学部は、次の4つの学科によって構成され、それぞれ特色ある授業を提供しています。

とりわけ地域経済や地域社会に関する豊富な授業は他大学にはみられない充実したものです。学生は入学時に学科を決めず、基礎を幅広く学んだのち各自の希望に応じて所属学科を決めますが、学生の多様な関心やニーズに対応し、多面的な学習ができるように所属学科にかかわらず豊富なメニューのなかから自由に選択できるようにしています。

〈経済学科〉

経済学科では、家計、企業、政府などの経済主体の行動が生み出す経済社会の諸現象を分析できる経済学的な考え方を学びます。これにより、グローバル化された経済社会で活躍できる人材を育成します。

〈経営システム学科〉

経営システム学科では、現代企業のかかえる経営上の問題に対しての経営学・商学・会計学の諸理論を基礎・中級・応用と段階的に幅広く学び、かつ分析・解明する方法や技術を会得したうえで、それらを実社会で有効に活用し効果的な解決策を提案できる実践力を養います。

〈地域システム学科〉

地域システム学科では、地域経済、法律、行政、福祉など、住民の生活領域を学際的・総合的に学ぶとともに、異文化間コミュニケーションと国際相互理解を深める実践的な学習を行います。これにより、地域の経済社会や行政・法制度に関わる知識を十分に備え、グローバルな諸問題を総合的に理解し、それらを活用して、地域社会の再生・活性化のために、ローカルな実践ができる人材を養成します。

〈社会イノベーション学科〉

社会イノベーション学科では、商品・サービスの創造による企業経営上の革新や、行政や NPO 等による社会事業創造に基づき、地域社会の課題を解決することを学びます。特に、イノベーション（新たな価値創造）が求められる社会経済状況を理解して、地域における現場体験を組み込んだ実践的な教育を通じ、課題探究能力およびチームワークを構築・維持できるようなコミュニケーション力を備えた人材や組織の中でイノベーション強化に携わる人材を養成します。

入学者選抜の基本方針

経済学部では、一般選抜（前期日程、後期日程）のほか、学校推薦型選抜（普通推薦、商業推薦）、総合型選抜、社会人選抜などを実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れます。

・一般選抜（前期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では数学と英語から1教科を課します。特色加点では、高等学校入学以降の様々な主体的・協働的な活動について、「自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲」を評価します。

・一般選抜（後期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入学共通テストは4～5教科5科目とし、個別学力検査では小論文を課しています。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。これらに加えて、高等学校入学以降の様々な主体的・協働的な活動について、「自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲」を評価します。

- ・学校推薦型選抜（普通推薦、商業推薦）

大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。面接はグループによるディスカッション方式で行い、積極性や理解力、自己表現能力を評価します。

- ・総合型選抜

[英語資格・簿記資格に基づく選抜制度]

英語または簿記の能力が高く、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲をもつ学生を選抜するため、大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は２段階選抜で、第１次選考は自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物による書類選考とします。第２次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。英語資格の個人面接では、提出書類も参考にして、取得資格に関する能力、積極性、自己表現能力を評価します。簿記資格の個人面接では、提出書類も参考にして、資格取得を通して身につけた能力を大学の学びにどのように結びつけたいかなどの積極性・学習意欲・自己表現能力を評価します。

[課題探究型学習に基づく選抜制度]

高等学校等での学習課程の中で課題探究に取り組みながらその成果を残し、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲をもつ学生を選抜するため、大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は２段階選抜で、第１次選考は自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物による書類選考とします。第２次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。個人面接では、提出書類も参考にして、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力および主体的に学習に取り組む態度を評価します。

- ・帰国生徒選抜

大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）を評価します。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力を評価します。

- ・社会人選抜

大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力を評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査（数学または英語から１教科選択）、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）を評価します。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力を評価します。

- ・第３年次編入学試験

英語、小論文、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。

各選抜試験で重視する力や観点

入試区分	入試科目	学力の3要素（確かな学力）			求める学生像		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	経済社会への関心や基礎学力を有する	自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲をもつ	
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○		○	
		教科の試験	○	○		○	
		特色加点			☆		☆
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○		○	
		小論文	○	○	○	○	○
学校推薦型選抜	小論文	○	○		○		
	面接（グループ・ディスカッション）	○	○	◎	○	○	
	調査書	○		○	○		
	志望理由書		○	○	○	○	
	推薦書	○		○	○	○	
総合型選抜	小論文	○	○		○		
	面接	◎	○	◎	○	◎	
	調査書	○		○	○		
	志望理由書		○	○	○	○	
その他	帰国生徒選抜	小論文	○	○		○	
		面接			◎	○	○
		調査書	○		○	○	
	社会人選抜	小論文	○	○		○	
		面接			◎	○	○
		調査書	○		○	○	
	私費外国人留学生選抜	教科の試験	◎			○	
		小論文	○	○		○	
		面接			◎	○	◎
		調査書	○		○	○	
	第3年次編入学試験	教科の試験	◎				
		小論文	○	○		○	
		調査書	○		○	○	

◎は、特に重視する

☆は、加点点評価

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

経済学部の教育は、高等学校等において学習する教科・科目を十分に理解していることを前提として行われます。学生の基礎的能力を高めることが本学部の目標ですので、大学入学までに以下に掲げる能力等を身につけるようにしてください。

国語：資料や文章の読解力や大意把握力、自分の考えを説明するための論理的思考力と表現力が必要です。

地理歴史、公民：基礎的な知識と政治、経済、社会の動きに対する知的好奇心と探究心が必要です。

数学：基本的概念や原理・法則を理解することに加え、論理的な思考力と応用力（商業推薦の受験者にあっても、簿記に関する同様の思考力と応用力）が必要です。

理科：基礎的な知識と自然や科学に対する知的好奇心と探究心が必要です。

外国語（英語）：資料や文章の読解力と意思疎通のためのコミュニケーション能力、ならびに多様な言語文化に対する関心が必要です。

大分大学医学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

基本理念

医、看護及び先進的医療に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学、看護学及び医療科学の知識並びに技術と技能、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師或いは看護師・保健師、医療従事者等、更には医学、看護学研究者、大学・企業研究者等を養成し、これら学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

<医学科>

患者の立場を理解した全人的医療を行い、豊かな教養と人間性、高度の学識、問題解決能力、生涯学習能力及び国際的視野を備えた医師や研究者を養成します。

<看護学科>

人々が心身共に健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の修得を促し、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができる、豊かな人間性を備えた人材を養成します。

<先進医療科学科>

領域・業種の垣根を超えた情報交換と交流の橋渡しができる能力を有し、大学・企業研究者、医療従事者、起業家、医療事業経営マネジメントを行える人材となり、進化した医工連携、深化した医学生命科学連携の将来の担い手として活躍できる人材を養成します。

求める学生像

<医学科>

- 1 医師として人の健康と福祉及び科学の進歩に貢献したいという確固たる決意を持っている人
- 2 患者の痛みを分かち合い、患者に対する思いやりに満ちた温かい心を正しく体得しようとする志を持っている人
- 3 日進月歩の医学・医療に対応する知識と技術を修得するため、たゆまぬ努力と地道な研鑽を重ねることができる持続力と忍耐力を持ち合わせている人
- 4 他者の意見を良く聞き、協調して物ごとを進めることができる社会性とコミュニケーション能力を備えている人
(一般選抜地元出身者枠、総合型選抜地域枠)
- 5 大分県の地域医療に貢献したいという強い意志と、地域医療に対する適応力を持っている人

<看護学科>

- 1 看護を通して社会に貢献しようとする意志と、他者の喜び、苦しみを分かち合える温かい心を持っている人
- 2 日進月歩の医療及び激動する社会の変化に対応しうる知識と技術の修得のため、たゆまぬ努力と自己研鑽（生涯学習）を重ねる人
- 3 国の内外を問わず、社会に起こっている問題に関心を持ち、それに対して自分の考えが述べられるような教養を備えている人
- 4 何ごとにも積極性を持ち、多くの人と交流ができる社会性を備えている人

<先進医療科学科>

- 1 医療に携わる様々な領域で研究者、科学者、起業家などとして地域社会の発展と人類の健康・福祉及び科学の進歩に貢献したいという確固たる決意を持っている人
- 2 好奇心旺盛で、様々な分野に興味があり、多様性のある活動ができる人

- 3 他者に対する思いやりに満ちた温かい心を正しく体得しようとする志を持っている人
- 4 日進月歩の医学・医療に対応する知識と技術を修得するため、自らたゆまぬ努力と地道な研鑽を重ねることができる自主性、持続力と忍耐力を持っている人
- 5 他者の意見を良く聞き、協調して物ごとを進めることができる社会性とコミュニケーション能力を持っている人

入学者選抜の基本方針

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、医学科では一般選抜と総合型選抜を、看護学科では一般選抜と学校推薦型選抜を、先進医療科学科では一般選抜を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、医学科では医学以外の大学在学者・卒業者を対象に第2年次編入学試験を、看護学科では社会人を対象とした入試や、看護系短期大学・専修学校の卒業者等を対象とした第3年次編入学試験を実施しています。

各選抜試験で重視する観点<医学科>

入試区分	検査項目	学力の3要素			求める学生像				
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	医師になる確固たる決意を有する	思いやりに満ちた温かい心を有する	努力する持続力と忍耐力を有する	協調性・社会性を有する	大分県の地域医療に貢献する強い意志と地域医療への適応力を有する
一般選抜	前期日程								
	大学入学共通テスト	○	○						
	個別学力検査(筆記)	○	○						
総合型選抜	個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○		○ (地元出身者枠)
	大学入学共通テスト	○	○						
	個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○		○ (地域枠)
	個別学力検査(グループディスカッション)		○	○				○	○ (地域枠)

各選抜試験で重視する観点<看護学科>

入試区分	検査項目	学力の3要素			求める学生像			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	強い意志と温かい心を有する	努力と自己研鑽を重ねる	問題意識を持ち教養を備えている	社会性を有する
一般選抜	前期日程							
	大学入学共通テスト	○	○					
	個別学力検査(小論文)	○	○					
	個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○	○

	後期日程	大学入学共通テスト	○	○					
		個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○	○
学校推薦型選抜		個別学力検査(小論文)	○	○					
		個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○	○
		個別学力検査(グループディスカッション)		○	○			○	○

各選抜試験で重視する観点<先進医療科学科>

入試区分	検査項目	学力の3要素			求める学生像			
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	地域発展・人類福祉への貢献の意思を有する	思いやりに満ちた温かい心を有する	努力する持続力と忍耐力を有する	協調性・社会性を有する
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	○	○				
		個別学力検査(筆記)	○	○				
		個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○
	後期日程	大学入学共通テスト	○	○				
		個別学力検査(小論文)	○	○				
		個別学力検査(個人面接)		○	○	○	○	○

・一般選抜

《医学科前期日程》

一般選抜では、高等学校等での教科面における学習の達成度をみるため、大学入学共通テストは5教科7科目を課しています。個別学力検査では、前期日程において、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2科目選択）、数学、英語の3教科の学力を測るとともに、面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等、受験者の素養を評価します。その際、高等学校等の調査書を参考資料とします。

《看護学科前期日程・後期日程》

一般選抜では、高等学校での教科面における学習の達成度を評価するため、大学入学共通テストについては5教科6科目を課します。また、個別学力検査については、前期日程では、小論文と面接を、後期日程では面接を課します。小論文では、論理的思考力・表現力・読解力・看護学を学ぶための適性等を評価します。面接では、コミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。その際、高等学校等の調査書及び志願調書を参考資料とします。

《先進医療科学科前期日程・後期日程》

一般選抜では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入学共通テストについては5教科7科目を課します。また、個別学力検査については、前期日程では、「数学」、「理科」（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1科目選択）、「英語」により、医学・医療を学ぶための基礎学力に加え、自然科学や多様な情報に対する深い思考力、判断力、表現力を評価するとともに、「面接」により課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価します。その際、高等学校等の調査書を参考資料とします。後期日程では、「小論文」により、医学・医療に関する深い思考力、判断力、表現力を評価するとともに、「面接」により課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価します。その際、高等学校等の調査書を参考資料とします。

・総合型選抜

《医学科》

総合型選抜は、自己推薦による入試であり、本学部アドミッション・ポリシーに掲げた求める学生像について、学力のみで選抜するものとは異なり、丁寧な面接により適性等を評価し選抜します。一般選抜と同じく大学入学共通テストは、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、5教科7科目を課しています。面接では、個人面接とグループディスカッションを行い、医学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・リーダーシップ・協調性・独創性等を評価します。また、自己推薦書、調査書及び特別活動に関する調査書から、志願者がどのような高校生活を送ってきたかを、課外活動やボランティア活動、資格等を中心に評価します。

・学校推薦型選抜

《看護学科》

学校推薦型選抜では、大学入学共通テストを免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接とグループディスカッションを行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。その際、調査書、推薦書及び自己推薦書を参考資料とします。

・社会人選抜

《看護学科》

社会人選抜では、社会人としての経験を看護の分野に生かしてゆくことのできる有能な人材を受け入れるため、大学入学共通テストを免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接とグループディスカッションを行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。

・第2年次編入学試験

《医学科》

第2年次編入学試験では、多様な専門能力、明確な問題意識や高い問題解決能力を有する人材並びに地域医療の場で活躍できる人材を受け入れるため、次のような3段階による選抜方法を実施しています。第1次選抜では小論文を含む書類審査を、第2次選抜では生命科学に関する総合問題と英語の学力審査を、第3次選抜では個人面接と課題発表形式を取り入れたグループディスカッションを行います。

・第3年次編入学試験

《看護学科》

短期大学の看護系学科及び看護系専修学校の卒業生等に、看護に対する専門能力及び指導能力をより高める機会を提供することを目的として、3年次への編入学を実施し、英語と総合問題と面接を課しています。総合問題では、専門基礎科目並びに専門科目に関する基礎知識・問題解決能力・統合能力を測り、面接では、コミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

医学・医療を学ぶには、十分な基礎学力に加えて幅広い教養と他者への共感性、倫理性、社会的常識を備えていることが不可欠です。医学部の教育は、高等学校教育全科にわたって以下に掲げる基礎的な知識、技能、思考力、体力等をバランスよく身につけていることを前提として行なわれます。合格時に不足している項目については、入学までに確実に修得することが必要です。

・一般選抜、学校推薦型選抜

〈医学科前期日程〉

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：各科目の基礎的知識、社会的常識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：理系数学（数学Ⅲ・数学Bの範囲まで）の知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、外国語文献を読解し、外国語で発表する基礎的語学力を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要で

〈看護学科前期日程・後期日程・学校推薦型選抜〉

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：社会科学的な基礎知識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：数学Ⅰ及び数学Ⅱの基礎的知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、会話を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要で

〈先進医療科学科前期日程・後期日程〉

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：各科目の基礎的知識、社会的常識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：理系数学（数学Ⅲ・数学Bの範囲まで）の知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、外国語文献を読解し、外国語で発表する基礎的語学力を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

・総合型選抜

〈医学科〉

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：各科目の基礎的知識、社会的常識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：理系数学（数学Ⅲ・数学Bの範囲まで）の知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、外国語文献を読解し、外国語で発表する基礎的語学力を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

大分大学理工学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）

基本理念

質の高い特色ある研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献すると共に、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を養成することです。

教育の目標

自ら課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力、国際基準を満たす専門知識を備え、総合的な視点から分野を超えて連携できる、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成します。

求める学生像

- ・理学及び工学分野の基礎をなす数学や理科等の基礎学力を備え、理学及び工学分野に加えより広範囲な事象に対して知的好奇心をもっている人
- ・基礎的な表現力・コミュニケーション力を備え、自立的に考えながらも他人と協力・共同して物事を実行していく意志と姿勢をもっている人
- ・社会における責任感と倫理観を備え、人類の福祉や地域社会のために理学・工学の視点から課題解決に貢献したいという意志をもっている人
- ・自らの考えで行動する主体性を備え、社会の変化に対応する柔軟性に資する知識・技能を学修する意志をもっている人

加えて、主に基礎学力を重視する一般選抜では、各プログラムカリキュラムを修得するのに必要となる高校段階の理科分野のうち、プログラムの指定する科目について十分に習熟している人を求めています。

また、志願分野への志望や興味を重視する総合型選抜、学校推薦型選抜、特別選抜（帰国生徒選抜、私費外国人留学生選抜）では、プログラムごとに次のような人を求めています。

<数理科学プログラム>

- ・数学に興味があり、科学技術を発展させるための様々な課題に対して、数学の立場からその解決方法を見出し、それに取り組む過程に魅力を感じる人

<知能情報システムプログラム>

- ・情報科学の基礎から知能工学の応用までの幅広い学習と研究に取り組み、高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、学んだことを生かして解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人

<物理学連携プログラム>

- ・物理学に関連する分野で地域社会や国際社会に貢献したいという意志をもっている人

<電気エネルギー・電子工学プログラム>

- ・現代社会を支える電気電子工学分野に関心があり、この分野を主体的に学んで社会で活躍したいという意欲のある人

<機械工学プログラム>

- ・ものづくりに興味があり、そのために必要な機械工学に関する専門知識を身につけ社会に貢献したいという意志をもっている人

<知能機械システムプログラム>

- ・メカトロニクスシステム（機械／電気系）と生体系、及びそれらの複合系に関する専門知識を身につけ多様化する社会の発展に貢献したいという意志をもっている人

<生命・物質化学プログラム>

- ・科学、工学の分野に関心があり、特に化学に関する幅広い専門知識・技術を身につけ社会に貢献したいという意志をもっている人

<地域環境科学プログラム>

- ・環境・自然科学・土木に関連する分野で、時々刻々と変化する地域的・社会的課題を的確にとらえ、安全・安心で持続可能な地域環境を実現するための取り組みを通じ、地域社会や国際社会に貢献したいという意志をもっている人

<建築学プログラム>

- ・自然科学や工学のみならず社会科学、環境科学並びに芸術の分野に関心があり、高度化・多様化・国際化している建築の知識や技術の修得をもって、安全・安心かつ持続可能な社会実現や魅力ある環境・空間の創生に貢献したいという意志をもっている人

入学者選抜の基本方針

本学部では、一般選抜（前期日程・後期日程）のほか、学校推薦型選抜（一般推薦、サイエンス推薦）、総合型選抜、特別選抜（帰国生徒選抜、私費外国人留学生選抜）などを実施し、アドミッション・ポリシーにそってより多くの観点から受験者の学力や資質を評価し、学生を選考します。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力に加えて知的好奇心や資質を評価するため、大学入学共通テスト（5教科7科目）、個別学力検査（数学・理科）及び特色加点により選抜します。大学入学共通テストでは、日常の学習の到達度、幅広い基礎学力の定着度、知識の（暗記だけではない）活用力を評価します。個別学力検査では、問題を解決するために適切な知識や技能を選択し、活用する能力、自らの考えを適切に表現する能力を評価します。特色加点では、理学及び工学に関する関心・意欲、協調性・積極性・主体性などを評価します。

・一般選抜（後期日程）

基礎学力に加えて知的好奇心や資質を評価するため、大学入学共通テスト（5教科7科目）及び個別学力検査（面接）により選抜します。大学入学共通テストでは、日常の学習の到達度、幅広い基礎学力の定着度、知識の（暗記だけではない）活用力を評価します。個別学力検査は、集団面接又は個人面接で行い、理工学分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力を評価します。また、数学と理科に関する学力及び科学的思考能力を評価する試問を含むことがあります。なお、後期日程では数理科学プログラム、物理学連携プログラム、地域環境科学プログラムへの仮配属はありません。

・学校推薦型選抜Ⅰ（一般推薦）

知能情報システムプログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム及び生命・物質化学プログラムにおいて、志望分野への興味と社会への貢献の意志を評価するため、大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、基礎能力試験及び面接により総合的に評価し、選抜します。志望理由書は参考資料として用います。基礎能力試験では、基礎学力を含む科学的思考力、論理的思考力及び課題解決能力を評価します。面接は集団面接で行い、基礎学力に関する試問も含み、志望理由書も参考にして科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを評価します。

・学校推薦型選抜Ⅰ（サイエンス推薦）

知能情報システムプログラム、知能機械システムプログラム及び生命・物質化学プログラムにおいて、志望分野への興味と社会への貢献の意志及び実績を評価するため、高等学校等において、科学に関する特別活動（例：SSHプログラム、科学クラブ等）に取り組んだ経験のある者を対象として、大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、プレゼンテーション及び面接により総合的に評価し、選抜します。また、科学に関する特別活動の実績を示す資料も提出してもらい、志望理由書とともに参考資料として用います。プレゼンテーションでは、科学に関する特別活動の内容に関する発表と質疑応答を

行います。面接は個人面接で行い、基礎学力に関する試問を含めて、科学に関する特別活動の実績を示す資料及び志望理由書も参考にして科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを評価します。

・学校推薦型選抜Ⅱ

建築学プログラムにおいて、幅広い分野への興味と社会への貢献の意志を評価するため、大学入学共通テスト(5教科7科目)、調査書、小論文及び面接により総合的に評価し、選抜します。大学入学共通テストでは、日常の学習の到達度、幅広い基礎学力の定着度、知識の活用力を評価します。小論文では課題について意見を問い、論理的思考力、判断力、表現力などを評価します。面接は個人面接で行い、志望理由書等も参考にして科学的思考力、建築への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを評価します。

・総合型選抜

知能情報システムプログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、地域環境科学プログラム及び建築学プログラムでは、志望分野への興味と社会への貢献の意志及び工業分野の学びの実績を評価するため、高等学校等の機械、電気、電子、情報、計算機、建築、土木、環境に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者を対象として、大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、調査書、自己推薦書、活動報告書及び面接により総合的に評価し、選抜します。面接は集団面接又は個人面接で行い、基礎学力に関する試問を含めて、科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを評価します。なお、知能情報システムプログラム、地域環境科学プログラム及び建築学プログラムでは、高等学校等で学習する内容に関する学力及び科学的思考能力を判定する基礎的な筆記試験を課します。

・帰国生徒選抜

日本国籍又は日本の永住許可を有する方を対象に、海外での学びと多様な経験や実績を評価するため、大学入学共通テストを免除し、本学で実施する学力検査(数学、理科)、面接、提出書類により総合的に評価し、選抜します。面接では、専門分野への関心・意欲・理解を評価するとともに、積極性、自己表現力を評価します。また、理解力・論理的思考力・表現力を評価するために基礎学力に関する試問を含むことがあります。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない方を対象に、海外での学びと多様な経験や実績を評価するため、大学入学共通テストを免除し、日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査(数学、理科)、面接、提出書類により総合的に評価し、選抜します。面接では、日本語能力、専門分野への関心・意欲・理解を評価するとともに、積極性、自己表現力を評価します。また、理解力・論理的思考力・表現力を評価するために基礎学力に関する試問を含むことがあります。

・第3年次編入学

理工学に関連する高等教育機関での多様な学修実績を活かし本学部でさらなる学修を志望する方を対象に、面接、提出書類により総合的に評価し、選抜します。面接では、簡単な筆記試験及び口頭試問により、基礎学力や専門分野の学力を評価するとともに、専門分野への意欲、積極性、論理的思考力、自己表現力についても評価します。

各選抜試験で重視する観点

入試区分			学力の3要素			求める資質・能力			
			知識・ 技能	思考力・ 判断力・ 表現力	主体性・ 協働性	数学・理 科の基 礎学力	知的好奇 心・志望 分野の課 題への興 味・意欲・ 関心・ね ばり強さ	自立的に 考え、かつ 他者と協 同して取 り組む姿 勢	リーダーシ ップと行動 力を発揮す る意志
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○		○			
		個別学力検査（数・理）	○	◎		◎			
		特色加点			☆		☆	☆	☆
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○		○			
		個別学力検査（面接（口頭試問を含む））	○	◎	○	○	◎	○	○
学校推薦型選抜Ⅰ	一般推薦	基礎能力試験	◎	○		○			
		面接（口頭試問を含む）	○	○	○	○	◎	○	○
		調査書・推薦書	○				○	○	○
	サイエンス推薦	プレゼンテーション		◎		○		◎	
		面接（口頭試問を含む）	○	○	○	○	◎	○	○
		調査書・推薦書	○				○	○	○
学校推薦型選抜Ⅱ		大学入学共通テスト	◎	○		○			
		小論文	○	◎			○		
		面接	○	◎	○		◎	○	○
		調査書	○				○	○	○
総合型選抜		面接（筆記試験・小論文・口頭試問を含む）	○	○	○	○	◎	○	○
		自己推薦書		○			○		
		活動報告書		○	○	○	○	◎	○
		調査書	○				○	○	○
その他	帰国生徒選抜	学力検査	◎	○		◎			
		面接	○	◎	○	○	○	○	○
		提出書類	○	○		○	○	○	○
	私費外国人留学生選抜	学力検査	◎	○		◎			
		面接	○	◎	○	○	○	○	○
		提出書類	○	○		○	○	○	○
	第3年次編入学試験	面接（筆記試験・口頭試問を含む）	○	○	○	○	◎	○	○
		提出書類	○	○	○	○	○	○	○

◎は、特に重視する

☆は、加点評価

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

理工学部教育においては、高等学校において学習する以下の教科・科目の内容を理解していることが望まれます。高等学校の教育課程や選抜区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人によってそれぞれ異なると思います。不足していると思われる項目については、入学までに身につけるよう期待します。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。修得しておくべき科目は、国語総合、国語表現、現代文、古典です。

地理歴史、公民：地理歴史、公民の各科目の学習を通じて、基礎的な知識を修得するとともに、地理・歴史及び現代社会に対する客観的な見方・考え方を身につけるとともに、政治・経済・社会の動きに対して常に興味や関心をもつことが必要です。

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについて、基礎的な計算技能を修得するとともに、基本的な定理を理解して活用できることが必要です。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理することに習熟していることが必要です。

理科：物理、化学、生物に関する基礎的な概念を理解するとともに、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方・考え方を身につけていることが必要です。電気エネルギー・電子工学プログラム、物理学連携プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラム志望者は、物理基礎及び物理の修得に加え、化学基礎及び化学、生物基礎及び生物、から1科目の修得が望まれます。数理科学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、地域環境科学プログラム志望者は物理基礎及び物理、化学基礎及び化学、生物基礎及び生物、から2科目以上の修得が望まれます。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれ、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力をもつことが必要です。修得しておくべき科目は、コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

大分大学福祉健康科学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー:AP)

基本理念

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に修得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことにより、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

教育の目標

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

求める学生像

本学部において、以下の人材を求めます。

- ・大学において、教養と専門的知識を修得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
 - ・福祉社会の実現に関心を持ち、自ら考え、実践・努力する人
 - ・様々な活動に主体的に取り組めるとともに、思いやりの心を持って行動できる人
 - ・地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人
 - ・知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
- 〈理学療法コース〉
- ・リハビリテーションの専門知識や技能を生かして社会に貢献したいという意思を持つ人
- 〈社会福祉実践コース〉
- ・福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意思を持つ人
- 〈心理学コース〉
- ・心理学の専門知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいという意思を持つ人

入学者選抜の基本方針

本学部では、求める学生像のみならず、高等学校及び大学において育成すべき「生きる力」「確かな学力」の本質を踏まえつつ、アドミッション・ポリシーに基づき、受験者の多様な能力を多面的に評価する個別選抜を確立するために、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（社会福祉実践コース）、総合型選抜（理学療法コース・心理学コース）を実施し、高等学校等で培われた学びの意欲や活動を多面的・総合的に評価し、選考します。

- ・一般選抜（前期日程、後期日程）

総合的な学力をみるため、大学入学共通テストと個別学力検査を課します。大学入学共通テストは5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では、各コースの専門に応じたテーマを設定した小論文及び面接を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成力を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などを評価します。

・学校推薦型選抜

「社会福祉実践コース」のみ学校推薦型選抜を行います。特に、大学入学共通テストを課さない学校推薦型選抜においては、アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多面的に評価する選抜として、小論文では総合問題等を導入し、論理的思考力、表現力を測り、面接ではコミュニケーション力やリーダーシップを測ることにより丁寧な選抜を行います。

・総合型選抜

「理学療法コース」及び「心理学コース」において総合型選抜を行います。総合型選抜では、大学入学共通テストによってコースの学修に必要な知識・技能を評価するとともに、小論文では論理的思考力、表現力を評価し、個別面接（理学療法コース及び心理学コース）やグループディスカッション（心理学コース）では主体性、協働力、意欲、積極性、コミュニケーション力やリーダーシップを評価します。

各選抜方法で重視する観点

入試区分及び入試科目		学力の3要素			本学部が求める力		
		知識技能	思考力 判断力 表現力	主体性 協働力	地域や現代社会への関心	意欲 積極性	コミュニケーション力・リーダーシップ
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○			
		小論文	○	◎	○	◎	○
		面接		○	◎	○	◎
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○			
		小論文	○	◎	○	◎	○
		面接		○	◎	○	◎
学校推薦型選抜	小論文	○	◎	○	◎	○	
	面接		○	◎	○	◎	◎
総合型選抜	大学入学共通テスト	◎	○				
	小論文	○	◎	○	◎	○	
	個別面接		○	◎	○	◎	◎
	グループディスカッション		○	◎	○	◎	◎

◎は、特に重視する

高等学校等の段階で修得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、修得していることを前提として行われます。個別学力検査及び学校推薦型選抜においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、修得していることが望まれます。

- 国語**：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、修得しておくべき科目は国語総合、国語表現、現代文、古典です。
- 地理歴史・公民**：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を修得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。
- 数学**：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を修得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、修得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。
- 理科**：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。
- 外国語（英語）**：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。
なお、修得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

入学者選抜実施日程

入試区分	学 部	募集要項 公表時期	出願期間	試験日	合格者発表
一般選抜	前期日程 教育学部 経済学部 理工学部 福祉健康科学部	12月上旬	令和5年(2023年) 1月23日(月) ～ 令和5年(2023年) 2月3日(金)	令和5年(2023年) 2月25日(土)	令和5年(2023年) 3月8日(水)
				令和5年(2023年) 2月25日(土) 2月26日(日)	
	医学部			令和5年(2023年) 3月12日(日)	令和5年(2023年) 3月21日(火)
	後期日程 教育学部 経済学部 医学部看護学科 医学部先進医療科学科 理工学部 福祉健康科学部			「前期日程」「後期日程」 の試験日の19:00までに 追試験願を提出	令和5年(2023年) 3月22日(水)
追試験 教育学部 経済学部 医学部 理工学部 福祉健康科学部					
学校推薦型選抜 I	経済学部 医学部看護学科 理工学部 福祉健康科学部	10月上旬	令和4年(2022年) 11月1日(火) ～ 令和4年(2022年) 11月4日(金)	令和4年(2022年) 11月16日(水)	令和4年(2022年) 12月1日(木)
学校推薦型選抜 II	教育学部 理工学部				令和5年(2023年) 2月14日(火)
総合型選抜I	経済学部	6月	令和4年(2022年) 9月1日(木) ～ 令和4年(2022年) 9月7日(水)	令和4年(2022年) 9月28日(水)	令和4年(2022年) 11月1日(火)
	理工学部	8月下旬	令和4年(2022年) 9月26日(月) ～ 令和4年(2022年) 9月30日(金)	令和4年(2022年) 10月26日(水)	令和4年(2022年) 11月8日(火)
総合型選抜II	教育学部	10月上旬	令和4年(2022年) 11月1日(火) ～ 令和4年(2022年) 11月4日(金)	令和4年(2022年) 11月19日(土)	令和5年(2023年) 2月14日(火)
	医学部医学科	8月	令和4年(2022年) 11月1日(火) ～ 令和4年(2022年) 11月4日(金)	令和5年(2023年) 2月12日(日)	令和5年(2023年) 2月14日(火)
	福祉健康科学部	7月	令和4年(2022年) 9月1日(木) ～ 令和4年(2022年) 9月7日(水)	令和4年(2022年) 11月16日(水)	令和5年(2023年) 2月14日(火)
帰国生徒選抜	経済学部 理工学部	12月上旬	令和5年(2023年) 1月4日(水) ～ 令和5年(2023年) 1月6日(金)	令和5年(2023年) 1月25日(水)	令和5年(2023年) 2月17日(金)
私費外国人 留学生選抜	経済学部 理工学部				
社会人選抜	経済学部				
	医学部看護学科	6月下旬	令和4年(2022年) 7月11日(月) ～ 令和4年(2022年) 7月15日(金)	令和4年(2022年) 8月19日(金)	令和4年(2022年) 9月12日(月)

募集人員

学部	課程・学科・コース		入学定員	募集人員					
				一般選抜		学校推薦型選抜		総合型選抜	
				前期日程	後期日程	学校推薦型選抜Ⅰ	学校推薦型選抜Ⅱ	総合型選抜Ⅰ	総合型選抜Ⅱ
教育学部	学校教育 教員養成 課程	初等中等 教育コース	140	72	23		35		10
		特別支援 教育コース	10	3	2		5		
		計	150	75	25	0	40	0	10
経済学部	経済学科		80	120	65	普通推薦 45 商業推薦 10		英語資格 5 簿記資格 15 課題探究 10	
	経営システム学科		75						
	地域システム学科		75						
	社会イノベーション学科		40						
	計【注2】		270						
医学部	医学科		90	一般枠 55 地元出身者枠 10					一般枠 22 地域枠 3【注6】
	看護学科		60	35	10	15			
	先進医療 科学科	生命健康 科学コース	20	15	5				
		臨床医工学 コース	15	11	4				
	計		185	126	19	15	0	0	25
理工学部	理工学 科	数理学プログラム	355	244	49 【注7】				
		知能情報システム プログラム				一般推薦 5 サイエンス推薦 2	7	5	
		物理学連携プログラム							
		電気エネルギー・ 電子工学プログラム				一般推薦 8	8	2	
		機械工学プログラム				一般推薦 10	10	5	
		知能機械システム プログラム				一般推薦 4 サイエンス推薦 1	5	1	
		生命・物質化学プロ グラム				一般推薦 6 サイエンス推薦 2	8		
		地域環境科学プロ グラム						2	
		建築学プログラム						5	4
	計		355	244	49	一般推薦 33 サイエンス推薦 5	38	5	19
福祉健康 科学部	福祉健康 科学科	理学療法 コース	30	22	3				5
		社会福祉実践 コース	35	23	4	普通推薦 7 福祉推薦 1	8		
		心理学コース	35	27					8
	計		100	72	7	8	0	0	13
合計			1060	637	165	161		97	

【注1】「学校推薦型選抜Ⅰ」及び「総合型選抜Ⅰ」は大学入学共通テストを課さないもの、「学校推薦型選抜Ⅱ」及び「総合型選抜Ⅱ」は大学入学共通テストを課すものを表します。

【注2】経済学部は、入学後、2年次に所属学科を決定します。

【注3】各学部の学校推薦型選抜、総合型選抜の入学者が募集人員に満たなかった場合は、一般選抜で補充することがあります。

【注4】経済学部一般選抜後期日程の募集人員には帰国生徒選抜、社会人選抜、私費外国人留学生選抜の募集人員（若干名）を含みます。そのため、これらの入試で合格者が出た場合は、その人数を考慮して、後期日程の合格者を決めることがあります。

医学部看護学科一般選抜後期日程の募集人員には社会人選抜の募集人員（若干名）を含みます。そのため、この入試で合格者が出た場合は、その人数を考慮して、後期日程の合格者数を決めることがあります。

理工学部一般選抜前期日程と後期日程の募集人員には帰国生徒選抜、私費外国人留学生選抜の募集人員（若干名）を含みます。そのため、これらの入試で合格者が出た場合は、その人数を考慮して、前期日程、後期日程の合格者数を決めることがあります。

【注5】医学部医学科一般選抜前期日程において、一般枠、地元出身者枠のどちらか一方が定員を満たした以降は、定員に満たない枠について、当該枠の専願者及び併願者を総合得点の高い順から合格者とします。

【注6】令和5年度（2023年度）募集人員の医学部医学科地域枠定員は現在3名です。文部科学省等に申請を行う予定であり、審議の結果、承認された場合及び承認されなかった場合は、本要項iiiページ掲載の募集人員となります。審議結果（令和4年（2022年）10月下旬～11月上旬を予定）が分かり次第、本学ホームページで発表します。

【注7】数理学プログラム、物理学連携プログラム、地域環境科学プログラムでは後期日程のプログラム仮配属はありません。

【理工学部について】

一般選抜について

理工学部理工学科一般選抜（前期日程）では、出願時に全9プログラム（数理科学、知能情報システム、物理学連携、電気エネルギー・電子工学、機械工学、知能機械システム、生命・物質化学、地域環境科学、建築学）から、第1志望から順に最大第9志望まで選んで出願することができます。また、理工学部理工学科一般選抜（後期日程）では、出願時に6プログラム（知能情報システム、電気エネルギー・電子工学、機械工学、知能機械システム、生命・物質化学、建築学）から、第1志望から順に最大第6志望まで選んで出願することができます。ただし、後述する理科の科目選択によるプログラム制限がある場合はこの限りではありません。合否判定は、受験者を成績順に並べ、上位より志望プログラムに仮配属を行います。募集の目安は下記のとおりです。なお、合否判定及びプログラム仮配属についての詳細は46、47ページを参照してください。

プログラム群	プログラム	募集の目安	
		前期日程	後期日程
数学、情報システム	数理科学プログラム	13	
	知能情報システムプログラム	39	9
物理、電子電気エネルギー	物理学連携プログラム	10	
	電気エネルギー・電子工学プログラム	46	9
機械、メカトロニクス	機械工学プログラム	42	10
	知能機械システムプログラム	16	6
化学、生命・物質科学	生命・物質化学プログラム	37	7
環境科学、建築	地域環境科学プログラム	13	
	建築学プログラム	28	8
合計		244	49

※数理科学プログラム、物理学連携プログラム、地域環境科学プログラムでは後期日程受験者のプログラム仮配属はありません。

プログラム配属及び入学後の教育方法について

一般選抜による合格者は入学時に合格したプログラムに仮配属されます。学校推薦型選抜、総合型選抜、私費外国人選抜及び帰国生徒選抜による合格者は、入学時から合格したプログラムに本配属されます。

1年次には専門性の近いプログラム群に所属し、分野的に共通の基盤となる基礎的な学問体系にかかる理解を深めます。2年次以降に各プログラムへ本配属となり、専門性を高めていきます。基本的には仮配属プログラムと同じプログラムに本配属されますが、分野を変更したい学生に向けて全プログラムを対象とした転プログラムが可能です。また、2年次で転プログラムしておらず、転プログラム後も4年での修了が見込める場合に限り、学部の定める基準を満たしていれば、3年進級時の転プログラムも可能です。

転プログラムは、学部の定める成績基準を満たすとともに、転入プログラムの受入上限（おおむね募集の目安の110%程度）を超えない範囲で認められます。

※転プログラム希望者が受入上限数を超えた場合には、学部の定める方法で審査を行い判定します。

※学校推薦型選抜、総合型選抜、私費外国人選抜及び帰国生徒選抜による合格者も転プログラムは可能ですが、一般選抜の合格者による転プログラムが優先されます。

一般選抜入学者選抜方法等

① 出願資格

- 1 令和5年度「**大学入学共通テスト**」で本学が指定する**教科・科目を受験した者**で、次のいずれかに該当する者です。
 - (1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を卒業した者及び令和5年（2023年）3月卒業見込みの者
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和5年（2023年）3月修了見込みの者
 - (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和5年（2023年）3月31日までにこれに該当する見込みの者

なお、同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学者資格認定の審査を行いますので、学生支援部入試課へ申し出てください。

<参考>学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学者資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

申出先 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
 大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

【注1】学校教育法第90条第2項による高校2年生からのいわゆる飛び入学については、実施しません。

【注2】出願資格のない者が受験しても合格とならないので注意してください。

- 2 医学部医学科地元出身者枠の志願者は、上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。
 - (1) 大分県内の小学校、中学校又は高等学校を卒業し、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者（令和5年（2023年）3月に大分県内の高等学校卒業見込みの者を含む。）
 - (2) 卒業後、初期研修2年間を含む3年間を大分大学医学部附属病院あるいは大分大学が指定する医療機関等で臨床研修に従事することを確約できる者

※地元出身者枠として出願資格を満たす者は、一般枠と併願することができ、第1志望、第2志望を選択します。

② 志願学部・学科等

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。）入学志願者は、一般選抜（個別学力検査）について、前期日程から1つ、後期日程から1つ、公立大学中期日程から1つの合計3つの国公立大学・学部に出願することができます。なお、本学のみに出願する場合、前期日程と後期日程において学部・学科等の組合せに制限はありません。

※公立大学協会ホームページ（<https://www.kodaikyo.org/nyushi>）を参照

(1) 教育学部

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも1つのみです。

(2) 経済学部

前期日程及び後期日程とも各学科の募集人員を一括して募集し、所属学科は入学後、2年次に決定します。

(3) 医学部

志願できる学科・コースは、前期日程及び後期日程とも1つのみです。（ただし、医学科は後期日程は実施しません。）

(4) 理工学部

- (ア) 志願できるプログラムは、前期日程で第9志望まで、後期日程で第6志望までです。また、全ての志望順位の記入は必須ではありませんが、記入した志望プログラム全てでプログラム配属上限数に達していた場合は、合格最低点以上であっても合否判定は行われませんので、配属を希望するプログラムは全て記入しておいてください（記入されていないプログラムには入学する（配属される）意思がないとみなします）。
- (イ) 前期日程において、物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを第1志望とする場合は、個別学力検査の「物理」を選択していることが必要です。個別学力検査の「物理」を選択していない志願者が物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを第1志望プログラムとした場合は、第2志望プログラム以下の数理科学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、地域環境科学プログラムのうち、最上位の志望プログラムが第1志望プログラムとして判定されます。
- (ウ) 前期日程及び後期日程とも、物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを志望する場合は、大学入学共通テストの「物理」を選択していることが必要です。大学入学共通テストの「物理」を選択していない志願者がこれらのプログラムを志望プログラムに記入した場合は、これらのプログラムの配属対象とはなりません。

(5) 福祉健康科学部

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも1つのみです。

③ 令和5年度（2023年度）入学者選抜の実施教科・科目等及び配点

教科・科目名の表記方法について

(1) 大学入学共通テストの利用教科・科目名は、次のように略しています。

- ・国語→国
『国語』→「国」
- ・地理歴史→地歴
「世界史A」→「世A」、「世界史B」→「世B」、「日本史A」→「日A」、
「日本史B」→「日B」、「地理A」→「地理A」、「地理B」→「地理B」
※「同一名称のA・B出題科目」とは、「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、
「地理A」と「地理B」を指します。
- ・公民→公民
「現代社会」→「現社」、「倫理」→「倫」、「政治・経済」→「政経」、
『倫理、政治・経済』→「倫・政経」
※「同一名称を含む出題科目」とは、「倫理」と『倫理、政治・経済』、「政治・経済」と『倫理、
政治・経済』を指します。
- ・数学→数
「数学Ⅰ」→「数Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』→「数Ⅰ・数A」、
「数学Ⅱ」→「数Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』→「数Ⅱ・数B」、
『簿記・会計』→「簿」、『情報関係基礎』→「情報」
- ・理科→理
「物理基礎」→「物基」、「化学基礎」→「化基」、「生物基礎」→「生基」、「地学基礎」→「地基」、
「物理」→「物」、「化学」→「化」、「生物」→「生」、「地学」→「地学」
※「基礎を付した科目」とは、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」を指します。
※「基礎を付さない科目」とは、「物理」「化学」「生物」「地学」を指します。
※「同一名称を含む出題科目」とは、「物理基礎」と「物理」、「化学基礎」と「化学」、「生物
基礎」と「生物」、「地学基礎」と「地学」を指します。
- ・外国語→外
『英語』→「英」、『ドイツ語』→「独」、『フランス語』→「仏」、『中国語』→「中」、
『韓国語』→「韓」

(注)『 』で記載しているものは、2つの科目を総合したもの又は2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目です。

(2) 個別学力検査の出題教科・科目名は、上記1によるほか次のように略しています。

- ・「国語総合」→「国総」
- ・「数学A」→「数A」、「数学B」→「数B」、「数学Ⅲ」→「数Ⅲ」
- ・「コミュニケーション英語Ⅰ」→「コ英Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」→「コ英Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」→「コ英Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」→「英表Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」→「英表Ⅱ」

◎42～50 ページの「大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度(2022年度) 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								その他の 入試方法等
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	ペーパー インタビュー	
教育学部 [3.8] 150人 前期 75 後期 25 推薦 40 総合 10	学校 教育 コース 2月25日	前期	国	国 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2	国 数 外	国 数 外 から1 ※4	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2											
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 } ※2											
			理	①物基、化基、生基、地学から1 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地学から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1											
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕											
			その他	ペーパーインタビュー ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」											
	特別支援 教育コース 10人 前期 3 後期 2 推薦 5	前期	国	国 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4	国 数 外	から1 ※4	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2											
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 } ※2											
			理	①物基、化基、生基、地学から1 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地学から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1											
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕											
			その他	ペーパーインタビュー ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」											
教育学部 [3.8] 150人 前期 75 後期 25 推薦 40 総合 10	学校 教育 コース 3月12日	後期	国	国 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4	国 数 外	から1 ※4	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2											
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 } ※2											
			理	①物基、化基、生基、地学から1 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地学から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1											
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕											
			その他	ペーパーインタビュー ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」											
特別支援 教育コース 10人 前期 3 後期 2 推薦 5	前期	国	国 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4	国 数 外	から1 ※4	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	
		地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2												
		公民	現社、倫、政経、倫・政経 } ※2												
		理	①物基、化基、生基、地学から1 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地学から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1												
		外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕												
		その他	ペーパーインタビュー ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」												
教育学部 [3.8] 150人 前期 75 後期 25 推薦 40 総合 10	特別支援 教育コース 10人 前期 3 後期 2 推薦 5	後期	国	国 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4	国 数 外	から1 ※4	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2											
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 } ※2											
			理	①物基、化基、生基、地学から1 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地学から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1											
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕											
			その他	ペーパーインタビュー ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」											

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 個別学力検査の〔 〕で示した配点は、個別学力検査で選択した教科の得点を合否判定に使用します。

◎42～50 ページの「大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度(2022年度) 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等							特色 加点	その他の 入試方法等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文			面接
経済学部 〔3.3〕 270人 前期 120 後期 65 推薦 55 総合 30	経済学科 経営システム 学科 地域システム 学科 社会イノベ ーション学科	前期 2月25日	国	国	数 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※6 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	大学入学共通 テスト	100	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200			800	学校推薦型選抜 総合型選抜 帰国生徒 社会人 私費外国人 追加合格 第2次募集
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から2 ※2				個別学力検査			[200]※6		<200>※6		200	
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 } の2				計	100	200	[400]※6 <200>	100	[200] <400>※6		1000	
			数	数Ⅰ・数A と 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2												
		理	①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 } ①又は②													
		外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕													
		後期 3月12日	国	国	その他	小論文	大学入学共通 テスト	100	100×2	100		100			500	
		地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から2 ※2	個別学力検査								200		200		
公民	現社、倫、政経、倫・政経 } の2	計	100	200	100		100	200		700						
数	数Ⅰ・数A、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 ※5															
外	英、独、仏、中、韓から1 〔4教科5科目又は5教科5科目〕															

※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。

※5 「数学」の科目において、2科目受験した場合は、高得点のものを合否判定に使用します。

※6 個別学力検査及び計の〔〕と<>で示した配点は、個別学力検査で選択した教科の得点を合否判定に使用します。

◎42～50 ページの「大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度(2022年度) 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								その他の 入試方法等						
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接		配点 合計					
医学部 〔4.0〕 185人 前期 126 後期 19 推薦 15 総合 25	医学科 90人 前期 65 (一般枠 55) (地元出身枠 10) 総合 25 (一般枠 22) (地域枠 3) ※10	前期 2月25日 と26日	国	国	数理 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 } から2 生基・生 } 外 その他 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 面接(個人面接) ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 ※数Bは「数列、ベクトル」	約3倍	大学入学共通 テスト	100	50	50×2	50×2	100			450	総合型選抜 追加合格 第2次募集					
			地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1 ※7																	
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2																	
			理	物、化、生から2																	
			外	英、独、仏、中、韓から1																	
	看護学科 60人 前期 35 後期 10 推薦 15	前期 2月25日 と26日	国	国	その他 小論文 面接(個人面接)	約3倍	大学入学共通 テスト	100	50	50×2	100	100			450	学校推薦型選抜 社会人 追加合格 第2次募集					
			地歴 公民	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 ※8										100	100		200				
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2																	
		後期 3月12日	その他	面接(個人面接)		約7倍	大学入学共通 テスト	100	50	50×2	100	100					450				
			理	物、化、生から1 ※9											100		100				
			外	英、独、仏、中、韓から1											100		100	550			
先進医療科学科	生命健康 科学コース 20人 前期 15 後期 5	前期 2月25日 と26日	国	国	数理 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 } から1 生基・生 } 外 その他 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 面接(個人面接) ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 ※数Bは「数列、ベクトル」	約3倍	大学入学共通 テスト	200	100	100×2	100×2	200			900	追加合格 第2次募集					
			地歴 公民	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 } から1 ※8											100		400				
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2																	
	後期 3月12日	その他	小論文 面接(個人面接)	約7倍		大学入学共通 テスト	200	100	100×2	100×2	200				900						
		理	物、化、生から2											150	150		300				
		外	英、独、仏、中、韓から1											150	150		1200				

※7 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が大学の指定した科目でなかった場合は、**出願資格を満たさないこと**となりますので、第1解答科目は、必ず大学が指定する科目の中から選択してください。

※8 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。

※9 「理科」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が大学の指定した科目でなかった場合は出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず大学が指定する科目の中から選択してください。

※10 令和5年度(2023年度)募集人員の医学部医学科地域枠定員は現在3名です。文部科学省等に申請を行う予定であり、審議の結果、承認された場合及び承認されなかった場合は、本要項iiiページ掲載の募集人員となります。審議結果(令和4年(2022年)10月下旬～11月上旬を予定)が分かり次第、本学ホームページで発表します。

◎42～50 ページの「大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度(2022年度) 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								特色加点	その他の 入試方法等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文			面接	配点 合計	
理工学部 [4.6] 355人 前期 244 後期 49 推薦 43 総合 19 理工学科	物理学連携 プログラム 10人 前期 10 電気エネルギー・ 電子工学プログラム 65人 前期 46 後期 9 推薦 8 総合 2 機械工学プログラム 67人 前期 42 後期 10 推薦 10 総合 5	前期 2月25日	国	国	数理 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 生基・生 } から1 ※7 から1(ただし、第一志望 とする場合は物理必須) ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	大学入学共通テスト 個別学力検査 計	150	75	50×2	50×2	200				625	学校推薦型選抜 総合型選抜 帰国生徒 私費外国人 追加合格 第2次募集		
			地歴 公民	世B、日B、地理B } から1 ※7 倫・政経													400	
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2														1025
			理	物と 化、生から1 } の2														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														
	知能機械システム プログラム 28人 前期 16 後期 6 推薦 5 総合 1 建築学プログラム 45人 前期 28 後期 8 推薦 5 総合 4	後期 3月12日	国	国	その他 面接(集団面接又は個人面接)	大学入学共通テスト 個別学力検査 計	125	75	150×2	100×2	200				900			
			地歴 公民	世B、日B、地理B } から1 ※7 倫・政経												200		
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2													200	
			理	物と 化、生から1 } の2														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														
数理学プログラム 13人 前期 13 知能情報システム プログラム 60人 前期 39 後期 9 推薦 7 総合 5 生命・物質化学 プログラム 52人 前期 37 後期 7 推薦 8 地域環境科学 プログラム 15人 前期 13 総合 2	前期 2月25日	国	国	数理 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 生基・生 } から1 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	大学入学共通テスト 個別学力検査 計	150	75	50×2	50×2	200				625	学校推薦型選抜 総合型選抜 帰国生徒 私費外国人 追加合格 第2次募集			
		地歴 公民	世B、日B、地理B } から1 ※7 倫・政経														400	
		数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2														1025	
		理	物 化 } から2 生															
		外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]															
		外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]															
	生命・物質化学 プログラム 52人 前期 37 後期 7 推薦 8 地域環境科学 プログラム 15人 前期 13 総合 2	後期 3月12日	国	国	その他 面接(集団面接又は個人面接)	大学入学共通テスト 個別学力検査 計	125	75	150×2	100×2	200				900			
			地歴 公民	世B、日B、地理B } から1 ※7 倫・政経													200	
			数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2													200	
			理	物 化 } から2 生														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														
			外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7科目]														

※7 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、**出願資格を満たさないこと**となりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

◎42～50 ページの「大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名 及び入学定員等 〔令和4年度(2022年度) 志願倍率〕	学力検査等の 区分・ 日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査			大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								その他の 入試方法等										
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接		配点 合計									
福祉健康 科学部 〔3.6〕 100人 前期 72 後期 7 推薦 8 総合 13	理学療法 コース 30人 前期 22 後期 3 総合 5	前期 2月25日	国	国	その他	小論文 面接(個人面接)	約3倍	大学入学共通 テスト	200	100	100×2	③50×2+100 ④100×2	200			900	総合型選抜 追加合格 第2次募集								
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B				から1 ※8	個別学力検査						300	100		400							
			公民	現社、倫、政経、倫・政経					計	200	100	200	200	200	200	300		100	1300						
		後期 3月12日	数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1	の2	その他	小論文 面接(個人面接)	約10倍	大学入学共通 テスト	200	100	100×2	③50×2+100 ④100×2	200				900							
			理	③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※11 ④物、化、生、地学から2	③又は④				個別学力検査						100	300		400							
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目〕					計	200	100	200	200	200	200	100		300	1300						
福祉健康 科学科	社会福祉 実践 コース 35人 前期 23 後期 4 推薦 8	前期 2月25日	国	国	その他	小論文 面接(個人面接)	約3倍	大学入学共通 テスト	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200			900	学校推薦型選抜 追加合格 第2次募集								
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B				から2 ※2	個別学力検査						300	100		400							
			公民	現社、倫、政経、倫・政経					計	200	200	200	100	200	300	100		1300							
		後期 3月12日	数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1	の2	その他	小論文 面接(個人面接)	約10倍	大学入学共通 テスト	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200				900							
			理	①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1	①又は②				個別学力検査						100	300		400							
			外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕					計	200	200	200	100	200	100	300		1300							
心理学 コース 35人 前期 27 総合 8	前期 2月25日	国	数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1	その他	小論文 面接(グループディスカッション※12)	約3倍	大学入学共通 テスト	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100)	200			900	総合型選抜 追加合格 第2次募集								
			地歴	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B								から1又は2						個別学力検査					100	300	400
			公民	現社、倫、政経、倫・政経 ※2 ①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2								※1						計	200	200 100	200	100 200	200	100	300
		後期 3月12日	外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕																					

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※8 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。
- ※11 「理科」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、出願資格を満たさないこととなります。
- ※12 受験者数によりグループを編成できない場合は、試験当日に個人面接に変更することがあります。

◎大学入学共通テスト・個別学力検査、その他の注意事項

全学部共通事項

【大学入学共通テストについて】

(1) 「英語」にはリスニングを含みます。リスニングを受験しなかった場合は、出願資格はありません（リスニングを免除された者は除く）。

「英語」は、リーディング 100 点、リスニング 100 点、合計 200 点の配点となっていますが、募集区分（一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜）に関わらず、学部毎に下記のように 200 点満点に換算して配点します。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を 200 点満点に換算して利用します。

・教育学部、経済学部、福祉健康科学部

リーディング 160 点、リスニング 40 点 合計 200 点（リーディングとリスニングの比率は 4 : 1）

・医学部、理工学部

リーディング 100 点、リスニング 100 点 合計 200 点（リーディングとリスニングの比率は 1 : 1）

(2) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

(3) 大学入学共通テストで本学が指定する教科・科目を受験しなかった場合は、出願資格はありません。なお、本学では令和 5 年度（2023 年度）の入学試験において、令和 4 年度以前の大学入学共通テスト及び大学入試センター試験の成績は利用しません。

【個別学力検査について】

個別学力検査で必要な教科・科目を受験しなかった場合は 0 点ではなく、不合格となります。

【追加合格、欠員補充第 2 次募集について】

後期日程入学手続締切期日までに入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充しますが、欠員補充第 2 次募集を行うこともあります。

【その他】

入学者の選抜は、大学入学共通テスト、個別学力検査及び出身高等学校長等が作成した調査書等に基づいて総合判定します。

教育学部

【大学入学共通テストについて】

・大学入学共通テストの（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い																																					
地歴 公民 理	<p>世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2 現社、倫、政経、倫・政経 ※2 ①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2</p> <p>※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④</p> <p>※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。</p> <p>※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。</p>	<p>「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し、理科の科目において、</p> <p>(a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="font-size: 2em;">+</td> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">} 高得点の2つ</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">=</td> <td rowspan="3" style="border: 1px solid black;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</td> </tr> </table> <p>ただし、理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="font-size: 2em;">+</td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">} 高得点のもの</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">=</td> <td rowspan="3" style="border: 1px solid black;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> <td style="font-size: 2em;">+</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="font-size: 2em;">+</td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">} 高得点のもの</td> <td rowspan="3" style="font-size: 2em;">=</td> <td rowspan="3" style="border: 1px solid black;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="border: 1px solid black;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="border: 1px solid black;">理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点</td> </tr> </table>	「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	} 高得点の2つ	=	合否判定に使用する得点			理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点			理科の「基礎を付さない科目」の得点	「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点			理科の「基礎を付さない科目」の得点	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+			「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点			「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点			理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点
「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	} 高得点の2つ	=	合否判定に使用する得点																																		
		理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点																																					
		理科の「基礎を付さない科目」の得点																																					
「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点																																		
		理科の「基礎を付さない科目」の得点																																					
「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+																																						
「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点																																		
		「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点																																					
		理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点																																					

一般選抜

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 国語、数学、外国語から試験開始後に1教科を選択して受験してください。
- (2) ペーパーインタビューは、コースごとに行います。出題されたテーマに関する質問に筆記で回答をし、そのテーマに対する理解力や自身の考え・意見の表現力、他者との関係における主体性や協働性、並びに教育への意欲と関心などを評価します。
- (3) 調査書はペーパーインタビューの参考にします。

後期日程

- (1) 小論文はコースごとに学校教育に関わる出題を行い、文章の理解力、論理的思考力、表現力、並びに教育に対する関心などを評価します。
- (2) ペーパーインタビューは、コースごとに行います。出題されたテーマに関する質問に筆記で回答をし、そのテーマに対する理解力や自身の考え・意見の表現力、他者との関係における主体性や協働性、並びに教育への意欲と関心などを評価します。
- (3) 調査書はペーパーインタビューの参考にします。

【同点者について】

- ・それぞれの入試区分において同点者がいる場合は、大学入学共通テストの高得点者を高順位とします。

経済学部

【大学入学共通テストについて】

- ・大学入学共通テストの（ ）で示した配点の取扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い			
理	①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1	前期日程の理科の科目において、 (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、			
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</td> <td rowspan="2" style="width: 40%; text-align: center;">} 高得点のものを合否判定に使用</td> </tr> <tr> <td>理科の「基礎を付さない科目」の得点</td> </tr> </table>	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のものを合否判定に使用	理科の「基礎を付さない科目」の得点
理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のものを合否判定に使用				
理科の「基礎を付さない科目」の得点					
		(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、			
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">第1解答科目</td> <td rowspan="2" style="width: 40%; text-align: center;">} 第1解答科目の得点を合否判定に使用</td> </tr> <tr> <td>第2解答科目</td> </tr> </table>	第1解答科目	} 第1解答科目の得点を合否判定に使用	第2解答科目
第1解答科目	} 第1解答科目の得点を合否判定に使用				
第2解答科目					

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 個別学力検査等の配点等の〔 〕と< >で示した配点は、個別学力検査で選択した教科の得点を合否判定に使用します。
- (2) 合否判定について
前期日程は、大学入学共通テスト及び個別学力検査の成績に特色加点を加えた合計点により合否判定を行います。特色加点は、大学入学共通テスト、個別学力検査の合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、加点枠を設けます。申請は任意とし、申請がなければ当初配点のみ（特色加点は0点）で合否判定を行います。
- (3) 特色加点について

高等学校入学以降において、友人、先輩後輩、先生、家族、地域の人々と一緒に、あるいは支えられて、志願者が主体的に興味と関心をもって取り組んできた、学び・課外活動等様々な活動及びその経験の本学部入学後の活用について、活動の根拠となる資料等とともに Web を通じて出願時に提出してください。

上記の活動の具体例としては、探究活動などの学習活動、生徒会・学校行事・部活動等の課外活動、家庭・地域など学校以外の活動、留学体験、コンテスト等での表彰・顕彰、資格・検定取得等、学校・地域・家庭での「多様な人々との協働」の中で志願者が積極的に興味と関心をもって取り組んだ活動となります。

根拠となる資料等の具体例としては、プレゼンテーションファイル・論文等の学習成果物や、活動に関わる広報・新聞等の印刷物・ホームページ記事、賞状、資格・免許証等が考えられます。

これらに基づいて、活動実績の優劣ではなく、本学部がアドミッション・ポリシーに定める「自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲」を評価します。

後期日程

- ・小論文は、高等学校の段階における総合的な学力到達度を検査する大学入学共通テストを補うものとして、次の資質をみようとするものであり、広く社会科学的素材に基づく出題を行います。ただし、専門的知識・用語は必要としません。

(a) 理解力（あるいは大意把握力） (b) 論理的思考力 (c) 表現力

これらに加えて、高等学校入学以降の様々な主体的・協働的な活動について、「自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲」を評価します。

医学部

【第1段階選抜について】

- ・医学科、看護学科及び先進医療科学科において、入学志願者が著しく多い場合は、大学入学共通テストの成績（傾斜後の得点）により、次のとおり第1段階選抜を行います。

前期日程

- ・医学科は一般枠と地元出身者枠を合わせて募集人員の約3倍まで、看護学科は募集人員の約3倍まで、先進医療科学科は募集人員の約3倍までを第1段階選抜の合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

後期日程

- ・看護学科は募集人員の約7倍まで、先進医療科学科は募集人員の約7倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 医学科において、理科の科目は、試験開始後に2科目を選択してください。
- (2) 医学科において、理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
- (3) 医学科の面接は、医学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲などを総合的に評価します。なお、面接の評価が著しく低い場合には、総合得点に関わらず不合格とします。
- (4) 看護学科の小論文は、課題式や資料式の小論文を出題し、論理的思考力、表現力、読解力及び看護学を学ぶための適性を評価します。
- (5) 看護学科の面接は、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲・倫理観等を総合的に評価します。
- (6) 先進医療科学科において、理科の科目は、試験開始後に1科目を選択してください。
- (7) 先進医療科学科において、理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
- (8) 先進医療科学科の面接は、課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価します。

後期日程

- (1) 看護学科の面接は、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲・倫理観等を総合的に評価します。
- (2) 先進医療科学科の小論文は、医学・医療に関する深い思考力、判断力、表現力を評価します。
- (3) 先進医療科学科の面接は、課題を解決しようとする意欲や社会への関心とコミュニケーション能力を評価します。

【同点者について】

前期日程

- ・同点者がいる場合は、医学科は大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者、大学入学共通テストの外国語の高得点者、看護学科は大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者、先進医療科学科は大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者を高順位とします。

後期日程

- ・同点者がいる場合は、看護学科は大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者、先進医療科学科は大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者を高順位とします。

【一般枠と地元出身者枠の選抜方法について】

- (1) 地元出身者枠として出願資格を満たす者は、一般枠と併願することができ、第1志望、第2志望を選択します。
- (2) 一般枠と地元出身者枠それぞれの定員を満たすまで、専願者と併願者（第1志望）を総合得点の高い順から志望する枠の合格者とします。
- (3) 一般枠、地元出身者枠のどちらか一方が定員を満たした以降は、定員を満たしていない枠について、当該枠の専願者及び併願者を総合得点の高い順から合格者とします。

理工学部

【大学入学共通テストについて】

前期日程及び後期日程とも、物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを志望する場合は、大学入学共通テストで「物理」を選択していることが必要です。「物理」を選択していない志願者がこれらのプログラムを志望プログラムに記入した場合は、これらのプログラムの配属対象とはなりません。また、これらのプログラムを配属対象から外した結果、どのプログラムの配属上限数内に収まらない場合は、不合格と判定されます。

※物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを志望する場合は、共通テストにおいて「物理」・「化学」もしくは「物理」・「生物」の組み合わせで科目選択をしなければなりません。

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
 - (2) 物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを第1志望とする場合は、個別学力検査の『物理』を選択していることが必要です。
 - ・個別学力検査の『物理』を選択していない志願者は、数理科学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、地域環境科学プログラムから第1志望を選び、これらのうち1つ以上を志望プログラムに選択してください。
 - ・個別学力検査の『物理』を選択していない志願者が物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを第1志望プログラムとした場合は、第2志望プログラム以下の数理科学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、地域環境科学プログラムのうち、最上位の志望プログラムが第1志望プログラムとして判定されます。この場合、当初の志望プログラム順位は第二志望以降に順次繰り下げられます。個別学力検査の『物理』を選択していない志願者が数理科学プログラム、知能情報システムプログラム、生命・物質化学プログラム、地域環境科学プログラムのどのプログラムも志望していない場合は、合否判定は行われませんので注意してください。
- ※個別学力検査の『物理』を選択していない志願者が物理学連携プログラム、電気エネルギー・電子工学プログラム、機械工学プログラム、知能機械システムプログラム、建築学プログラムを第2志望以下とする場合は、個別学力検査の『物理』は選択しなくても志願可能ですが、入学後は高校レベルの物理分野の基礎能力が必要となりますので、考慮して志望プログラム順位を決めてください。

(3) 特色加点について

大学入学共通テスト及び個別学力検査の成績、並びに特色加点により合格者を決定します。特色加点は、大学入学共通テスト、個別学力検査の合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、加点枠を設けます。申請は任意とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。高等学校入学以降に取り組んだ主体的な活動や学びを、根拠となる資料等とともに Web を通じて出願時に提出してください。主体的な活動や学びの具体例としては、探究型学習や課題研究などの学習研究活動、部活動や生徒会活動などの課外活動、ボランティアや地域活動などの社会活動、資格・検定取得、コンテスト等への参加、海外留学経験、その他主体的な活動などが考えられます。また、根拠となる資料等の具体例としては、活動過程の記録（ポートフォリオ）、賞状、新聞記事等が考えられます。これらに基づいて、活動実績の優劣ではなく、活動を通しての成長及び入学者選抜の基本方針で示す「主体性・協働力」、「知的好奇心・志望分野の課題への興味・意欲・関心・粘り強さ」、「自立的に考え、かつ他者と共同して取り組む姿勢」、「リーダーシップと行動力を発揮する意思」について総合的に評価します。

後期日程

面接に先立って、志望動機、理工学に関わる分野への関心、本学入学後の目標などに関する「志望理由書」への記入を求めます。面接は集団面接又は個人面接で行い、提出書類と志望理由書を参考にして、理工学に関わる分野への関心・意欲・理解、及び今後の目標、本学入学後の勉学意欲などについてみるとともに積極性、自己表現力を評価します。また、理工学で必要となる、高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する試問も含むことがあります。集団面接ではグループディスカッションは行いません。

【合否判定について】

前期日程

前期日程は、大学入学共通テスト及び個別学力検査の成績、並びに特色加点により合格者を決定します。合否判定及び仮配属決定は以下の手順で実施します。

- (1) 「1次選考」では、大学入学共通テスト得点と個別学力検査得点を合計した成績上位者において、合格基準を上回った受験者を「1次選考適格者」とします。
- (2) 「1次選考適格者」について、大学入学共通テスト得点と個別学力検査得点に特色加点を合計した成績順を「特色加点付加順位」とします。
- (3) 「2次選考」では、「特色加点付加順位」の順に並べて、上位から受験者の志望に応じて順次、各プログラムの上限数範囲内で合格者として仮配属プログラムを決定します。
- (4) (3)の選定で記入した志望プログラム全てでプログラム配属上限数に達していた場合は、合格者となりません。

※志望プログラムは第9志望まで全て埋める必要はありませんが、「2次選考」において記入した志望プログラム全てでプログラム配属上限数に達していた場合は、合格最低点以上であっても合否判定は行われませんので、配属を希望するプログラムは全て記入しておいてください（記入されていないプログラムには入学する（配属される）意思がないとみなします）。

後期日程

後期日程は、大学入学共通テスト及び個別学力検査（面接）の成績により合格者を決定します。合否判定及び仮配属決定は以下の手順で行います。

- (1) 大学入学共通テスト得点と個別学力検査得点を合計した成績順に並べ、上位から受験者の志望に応じて順次、各プログラムの上限数範囲内で合格者として仮配属プログラムを決定します。
- (2) (1)の選定で記入した志望プログラム全てでプログラム配属上限数に達していた場合は、合格者となりません。

※志望プログラムは第6志望まで全て埋める必要はありませんが、「2次選考」において記入した志望プログラム全てでプログラム配属上限数に達していた場合は、合格最低点以上であって

も合否判定は行われませんので、配属を希望するプログラムは全て記入しておいてください
 (記入されていないプログラムには入学する(配属される)意思がないとみなします)。

各プログラムの募集の目安は以下のとおりとし、プログラム配属上限数は募集の目安を元に
 決定されます。

各プログラムの募集の目安

学科	プログラム群	プログラム	募集の目安	
			一般選抜	
			前期日程	後期日程
理工学科	数学、情報システム	数理科学プログラム	13	
		知能情報システムプログラム	39	9
	物理、電子電気エネルギー	物理学連携プログラム	10	
		電気エネルギー・電子工学プログラム	46	9
	機械、メカトロニクス	機械工学プログラム	42	10
		知能機械システムプログラム	16	6
	化学、生命・物質科学	生命・物質化学プログラム	37	7
	環境科学、建築	地域環境科学プログラム	13	
		建築学プログラム	28	8
	合計			244

【同点者について】

前期日程・後期日程

同点者がいる場合は、大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aの高得点者を高順位とします。大学入学共通テストの数学Ⅰ・数学Aも同点の場合は、大学入学共通テストの外国語の高得点者を高順位とします。

【大学入学共通テストについて】

・大学入学共通テストの（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
理	①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 } ①又は②	理科の科目において、 (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 理科の「基礎を付さない科目」の得点 } 高得点のものを合否判定に使用 (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、 第1解答科目 第2解答科目 } 第1解答科目の得点を合否判定に使用
地歴 公民 理	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2 現社、倫、政経、倫・政経 } ※2 ①物基、化基、生基、地基から2 ②物、化、生、地学から1 ③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※3 ④物、化、生、地学から2 } ※1 ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④ ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。 ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。	「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し、 理科の科目において、 (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 理科の「基礎を付さない科目」の得点 } 高得点の2つ = 合否判定に使用する得点 ただし、理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点 理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点 理科の「基礎を付さない科目」の得点 } 高得点のもの = 合否判定に使用する得点 (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、 「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点 理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点 } 高得点のもの = 合否判定に使用する得点 「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点 理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点 } 高得点のもの = 合否判定に使用する得点

【第1段階選抜について】

各コースにおいて、入学志願者が著しく多い場合は、大学入学共通テストの成績（傾斜後の得点）により、次のとおり第1段階選抜を行います。

前期日程

・各コースの募集人員の約3倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

後期日程

・各コースの募集人員の約10倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

【個別学力検査について】**前期日程・後期日程**

・個別学力検査では、小論文及び面接^{*}を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などを評価します。なお、面接の得点が、面接の配点の20%以下の場合には、総合得点に関わらず不合格とします。

※面接は、理学療法コース及び社会福祉実践コースでは「個人面接」、心理学コースでは「グループディスカッション」を行います。なお、心理学コースでは、受験者数によりグループを編成できない場合は、試験当日に個人面接に変更することがあります。

【同点者について】

・それぞれの入試区分において同点者がいる場合は、大学入学共通テストの高得点者を高順位とします。

学校推薦型選抜募集人員

【学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）】

学部	課程・学科・コース		推薦区分	募集人員	推薦人員
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	【注】	普通推薦	45	各高等学校等から4名以内
			商業推薦	10	制限なし
			計	55	
医学部	看護学科			15	各高等学校等から3名以内
	計			15	
理工学部	理工学科	知能情報システムプログラム	一般推薦	5	各高等学校等から3名以内
			サイエンス推薦	2	制限なし
		電気エネルギー・電子工学プログラム	一般推薦	8	各高等学校等から4名以内
		機械工学プログラム	一般推薦	10	各高等学校等から4名以内
		知能機械システムプログラム	一般推薦	4	制限なし
			サイエンス推薦	1	制限なし
		生命・物質化学プログラム	一般推薦	6	制限なし
			サイエンス推薦	2	制限なし
計			38		
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	7	各高等学校等から2名以内
			福祉推薦	1	各高等学校等から2名以内
	計			8	
合計				116	

【注】経済学部は、入学後、2年次に所属学科を決定します。

【学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）】

学部	課程・学科・コース		推薦区分	募集人員	推薦人員
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育コース		35	制限なし
		特別支援教育コース		5	制限なし
	計			40	
理工学部	理工学科	建築学プログラム		5	制限なし
	計			5	
合計				45	

学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）

〈経済学部・医学部（看護学科）・理工学部・福祉健康科学部〉

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

(1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）

(2) 合格した場合は、入学することを確約できる者

(3) 次表の各学部・学科・コース等の掲げる推薦要件を満たす者

学部	学科・コース等	推薦区分	推薦要件
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	普通推薦	(1) 高等学校等の普通科又はその他の学科で本学が普通科に準じると認める学科・課程（いわゆる職業教育を主とする学科以外の学科）を卒業見込みの者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 校内外を問わず自主的勉学ないし活動において特に優れた成果をあげている者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		商業推薦	(1) 高等学校等の商業に関する学科・課程又はその他の学科を卒業見込みの者。ただし、 商業に関する学科・課程以外 を卒業見込みの者については、 商業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (2) 高等学校等の3年次における成績が 上位10%以内 の者 (3) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
医学部	看護学科		(1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 ※④に該当する者については、調査書に④と表示してください。 (2) 看護職者あるいは看護学研究者として活躍しようとする、はっきりした目的意識を持ち、他者への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者

学部	学 科 ・ コ ー ス 等		推薦区分	推 薦 要 件
理 工 学 部	理 工 学 科	知能情報システムプログラム	一般推薦	(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		電気エネルギー・電子工学プログラム		(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に「物理」が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		機械工学プログラム		(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		知能機械システムプログラム		(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		生命・物質化学プログラム		(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		知能情報システムプログラム		サイエンス 推薦
	知能機械システムプログラム			
	生命・物質化学プログラム			

学部	学 科 ・ コ ー ス 等		推薦区分	推 薦 要 件
福 祉 健 康 科 学 部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者
			福祉推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 福祉に関する学科・課程又はその他の学科 を卒業見込みの者。ただし、次のいずれかに該当する者 ① 文部科学省が指定する「福祉系高等学校等」「特例高等学校等」において「 教科福祉 」に含まれる科目を 12単位以上 修得した(見込みを含む。)者 ② ①以外の高等学校等で福祉関係のコースや課程、系列において、 福祉に関する科目を12単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (3) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者

② 配点

学 部	学科・コース・ 推薦別等	小論文	基礎能 力試験	面 接				志望 理由書	推薦書	調査書	合 計
				プレゼン テーション	個人 面接	グルー プディ スカッ ション	集団 面接				
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	60				60		30		150	
医学部	看護学科	100			100					200	
理工学部	一般推薦		300				150		50	500	
	サイエンス推薦			200	250				50	500	
福祉健康 科学部	福祉健康 科学科 社会福祉 実践コース	100			100					200	

【注】必要な検査項目を受験しなかった場合は、0点ではなく、不合格となります。

③ 選抜方法、面接、採点・評価等

大学入学共通テストを免除し、各検査項目、志望理由書、推薦書及び調査書に基づいて総合判定します。

【経済学部】

調査書、志望理由書、推薦書、小論文及び面接を総合的に評価し合格者を決定します。

(1) 面接

- ・面接は、課題についてのグループディスカッションを行います。

(2) 採点・評価

- ・小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。
- ・面接では、積極性や理解力、自己表現能力を評価します。
- ・調査書、志望理由書、推薦書等の提出書類では、高等学校等での活動や本学入学後の勉学意欲について評価します（志望理由書は、内容とその表現の両方を評価します）。

【医学部看護学科】

小論文及び面接（個人面接及びグループディスカッション）により合格者を決定します。調査書、推薦書及び自己推薦書は、参考資料として用います。

なお、同点者がいる場合は、面接の高得点者を高順位とします。

(採点・評価)

- ・小論文においては、課題式や資料式問題について解答を求め、理解力、統合力、思考力、表現力、独創性、論理性などを評価します。
- ・個人面接においては、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲、自己理解力などを総合的に評価します。
- ・グループディスカッションにおいては、コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性などを総合的に評価します。

【理工学部】

一般推薦

基礎能力試験、面接、推薦書及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。志望理由書は参考資料として用います。

基礎能力試験では、高等学校等で学習する内容に関する学力、及び科学的思考能力を評価します。

推薦書及び調査書では、高等学校等での学習及び課外活動状況について評価します。

面接は集団面接で行い、提出書類も参考にして、志望するプログラムやそれに関わる分野への関心・意欲・理解、及び今後の目標、本学入学後の勉学意欲などについて評価するとともに積極性、自己表現力を評価します。また、志望するプログラムで必要となる、高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する試問も含むことがあります。集団面接ではグループディスカッションは行いません。面接員からの質問に一人ずつ答えてもらいます。質問は全員に同じ場合と、別々の場合があります。

サイエンス推薦

科学に関する活動実績を示す資料（発表会・報告会資料等）、プレゼンテーション、面接、推薦書及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。志望理由書は参考資料として用います。

推薦書及び調査書では、高等学校等での学習及び課外活動状況について評価します。

プレゼンテーションでは、科学に関する活動についての発表と、それらに関する質疑応答を行い、理解・自己表現力を評価します。

面接は個人面接で行い、提出書類も参考にして、志望するプログラムやそれに関わる分野への関心・意欲・理解、及び今後の目標、本学入学後の勉学意欲などについて評価するとともに積極性、自己表現力を評価します。また、志望するプログラムで必要となる、高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する試問も含まれます。

【福祉健康科学部】

小論文及び面接（個人面接）を総合的に評価し、合格者を決定します。志望理由書、推薦書、調査書は、参考資料として用います。

（採点・評価）

- ・小論文では、読解力、論理的思考力、表現力などを評価します。
- ・面接では、コミュニケーション力、積極性、リーダーシップなどを評価します。

- ④ **出願期間** 令和4年（2022年）11月1日（火）～4日（金）
- ⑤ **試験日** 令和4年（2022年）11月16日（水）：・経済学部・医学部看護学科・理工学部
・福祉健康科学部
- ⑥ **合格者発表** 令和4年（2022年）12月1日（木）

学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）

※本学の学校推薦型選抜Ⅱに出願した者は、本学の総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）に出願することはできません。

＜教育学部＞

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

- (1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）
- (2) 合格した場合は、入学することを確約できる者
- (3) 次表の各コースの掲げる推薦要件を満たす者

学部	課程・コース		推薦要件
教育学部	学校教育教員養成課程	初等中等教育コース 大分の小学校教員志望枠（仮称）	人物的に優れ、かつ、初等中等教育に対する意欲と情熱を有し、教員としての適性がある者 卒業後は、大分を中心とした地域の小学校教員を主とした学校教員として地域社会への貢献ができる者
		特別支援教育コース	人物的に優れ、かつ、特別支援教育に対する意欲と情熱を有し、教員としての適性がある者

② 試験日及び大学入学共通テスト指定教科・科目等

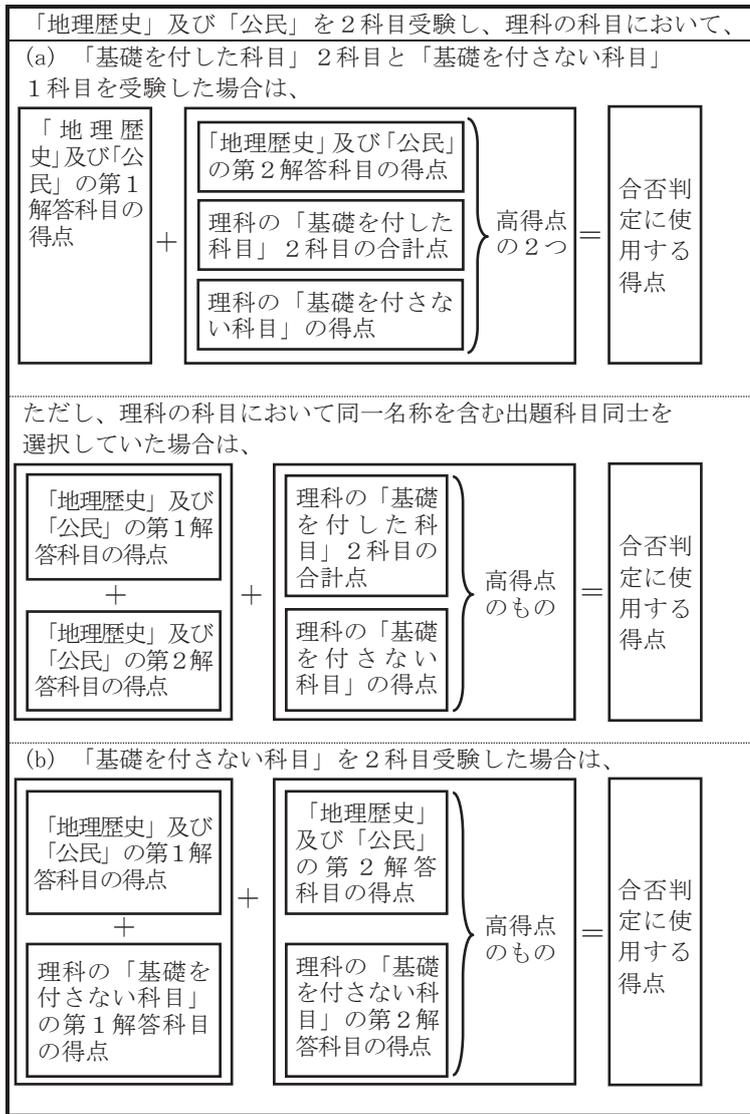
(1) 面接試験日：令和4年（2022年）11月16日（水）

(2) 大学入学共通テスト

学部	課程・コース	大学入学共通テスト指定教科・科目名			
		教科	科目名等	配点	
教育学部	学校教育教員養成課程	国語	「国」	200	
		数学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から1	の2	100 100
			地理歴史 公民 理科	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫」「政経」「倫・政経」から1又は2 ※2	※1
		特別支援教育コース	①「物基」「化基」「生基」「地基」から2 ②「物」「化」「生」「地学」から1 ③「物基」「化基」「生基」「地基」から2と「物」「化」「生」「地学」から1 ※3 ④「物」「化」「生」「地学」から2	※1	
	外国語	「英」「独」「仏」「中」「韓」から1		200	
[5教科7～8科目又は6教科7～8科目]					

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。

(ア) 大学入学共通テストの地理歴史、公民、理科の配点の取り扱いは次のとおりです。



(イ) 「英語」にはリスニングを含みます。リスニングを受験しなかった場合は、受験資格はありません(リスニングを免除された者は除く)。

大学入学共通テスト「英語」はリーディング100点、リスニング100点、合計200点の配点となっていますが、リーディング160点、リスニング40点、合計200点満点に換算して配点します(リーディングとリスニングの比率は4:1)。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を200点満点に換算して利用します。

(ウ) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

③ 配点

学部	課程・コース	大学入学 共通 テスト	個人 面接	志望 理由書	推薦書	調査書	合計
教育 学部	学校教育教員養成課程 初等中等教育コース	900	600				1500
	特別支援教育コース	900	600				1500

④ 選抜方法、面接、採点・評価等

大学入学共通テスト、個人面接、志望理由書、推薦書及び調査書を総合的に評価し、合格者を決定します。

(1) 個人面接

- ・複数の面接委員により、当該コースへの関心、意欲、理解力及び自己表現力などを評価します。
さらに、テーマを出題して、そのテーマに対する理解力や自身の考え・意見の表現力、他者との関係における主体性や協調性、並びに教育への意欲と関心などを評価します。

(2) 調査書等

- ・志望理由書、推薦書、調査書は面接の参考にします。

⑤ 同点者の取扱い

総得点が同点の場合は、大学入学共通テストの高得点者を高順位とします。

⑥ 出願期間 令和4年(2022年)11月1日(火)～4日(金)

⑦ 合格者発表 令和5年(2023年)2月14日(火)

〈理工学部〉

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

(1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等(以下「高等学校等」という。)を令和5年(2023年)3月卒業見込みの者(外国の高等学校に留学のため、令和4年(2022年)4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。)

(2) 合格した場合は、入学することを確約できる者

(3) 次表の各コースの掲げる推薦要件を満たす者

学部	学 科 ・ プ ロ グ ラ ム		推 薦 要 件
理工学部	理工学科	建築学プログラム	(1) 本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者

② 試験日及び大学入学共通テスト指定教科・科目等

(1) 面接試験日：令和4年(2022年)11月16日(水)

(2) 大学入学共通テスト

学部	学科・プログラム	大学入学共通テスト指定教科・科目名		
		教科	科 目 名 等	配点
理工学部	理工学科 建築学プログラム	国語	「国」	125
		数学	「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から1 } の2	150 150
		地理歴史 公民	「世B」「日B」「地理B」「倫・政経」から1 ※1	75
		理科	「物理」と 「化学」「生物」から1 } の2	100 100
		外国語	「英」「独」「仏」「中」「韓」から1	200
[5教科7科目]				

※1 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

(ア)「英語」にはリスニングを含みます。リスニングを受験しなかった場合は、受験資格はありません(リスニングを免除された者は除く)。

大学入学共通テスト「英語」はリーディング100点、リスニング100点、合計200点の配点となっていますが、リーディング100点、リスニング100点 合計200点満点の配点とします(リーディングとリスニングの比率は1:1)。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を200点満点に換算して利用します。

(イ)「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

③ 配点

学 部	学科・プログラム		大学入学共通 テスト	小論文	個人 面接	志望 理由書	推薦書	調査書	合 計
理工学部	理工学科	建築学 プログラム	900	250	300			50	1500

④ 選抜方法、面接、採点・評価等

大学入学共通テスト、小論文、個人面接及び調査書を総合的に評価し、合格者を決定します。

小論文では課題について意見を問い、論理的思考力、判断力、表現力などを評価します。面接は個人面接で行い、志望理由書等も参考にして科学的思考力、建築への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを評価します。調査書では、高等学校等での学習及び課外活動状況について評価します。

⑤ 同点者の取扱い

総得点が同点の場合は、大学入学共通テストの高得点者を高順位とします。

⑥ 出願期間 令和4年（2022年）11月1日（火）～4日（金）

⑦ 合格者発表 令和5年（2023年）2月14日（火）

総合型選抜 I (大学入学共通テストを課さない)

【経済学部】【英語資格・簿記資格に基づく選抜制度】

【総合型選抜 I】

実施学部 学 科 名	経済学部				
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科				
募集人員	20名 (英語資格 5名、簿記資格 15名)				
<p>〔出願資格〕 次の(1)に該当する者で、かつ(2)の要件を満たし、入学試験に合格した場合は入学することを確約できる者です。</p> <p>(1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び令和5年(2023年)3月卒業見込みの者(外国の高等学校に留学のため、令和4年(2022年)4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。)で、調査書の履修科目全体の学習成績の状況が3.5以上の者</p> <p>(2) 次のいずれかの資格を有する者</p> <p>英語資格：実用英語技能検定(英検)2級以上 TOEICスコア480点以上 「GTEC」CBTタイプスコア900点以上 「GTEC」検定版スコア970点以上(オフィシャルスコアに限る)</p> <p>簿記資格：日本商工会議所簿記検定試験(日商簿記)2級以上</p>					
選 抜 方 法 等	<p>大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選抜します。選抜方法は2段階選抜とします。</p> <p>(1) 第1次選考 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物により選抜します。 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物では、高等学校等での学習活動(高大接続関連事業による学習活動を含む。)、取得資格に関わる活動状況や今後の目標、本学入学後の勉学意欲等について評価します。 ※第1次選考の合格者数は、英語資格・簿記資格とも募集人員の3倍程度とします。</p> <p>(2) 第2次選考 第1次選考の合格者を対象に、小論文及び個人面接により選抜します。 小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力(あるいは大意把握力)、論理的思考力、表現力を評価します。英語資格の個人面接では、提出書類も参考にして、取得資格に関する能力、積極性、自己表現能力を評価します。簿記資格の個人面接では、提出書類も参考にして、資格取得を通して身につけた能力を大学の学びにどのように結び付けたいかなどの積極性・学習意欲・自己表現能力を評価します。なお、英語資格の個人面接では英語での質疑応答を行います。簿記資格の個人面接では出願時に提出した「経済社会の諸問題について」を用いてその内容を5分で発表してもらった後、発表内容及び提出書類も参考にして質疑応答を行います。 試験の配点は下記のとおりです。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>小論文</td> <td>個人面接</td> </tr> <tr> <td>50点</td> <td>50点</td> </tr> </table>	小論文	個人面接	50点	50点
小論文	個人面接				
50点	50点				
出 願 期 間	令和4年(2022年)9月1日(木)～令和4年(2022年)9月7日(水)				
選 抜 期 日 (第2次選考)	令和4年(2022年)9月28日(水)				
合格者発表日	令和4年(2022年)11月1日(火)				

【注】所属学科は、入学後、2年次に決定します。

実施学部 学 科 名	経済学部 経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科 【注】				
募集人員	10名				
〔出願資格〕	次の（１）に該当する者で、かつ（２）の要件を満たし、入学試験に合格した場合は入学することを確約できる者です。 （１）高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び令和５年（２０２３年）３月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和４年（２０２２年）４月１日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、調査書の履修科目全体の学習成績の状況が 3.5以上 の者 （２）次のいずれかの要件を満たす者 ①高等学校等の総合的な探究（学習）の時間（課題研究等を含む。）等での課題探究型学習の経験者 ②大学（本学又は他大学）による高校生対象の課題探究型学習の経験者 ③課題探究型学習成果コンテストの経験者 ④上記①②③の他、高等学校等での課題探究型学習の経験者 ※ ③の成果コンテストの事例として、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」（日本政策金融公庫）、「NRI 学生小論文コンテスト」（野村総合研究所）、「全国高等学校生徒商業研究発表大会」（全国商業高等学校協会）、「高校生なるほどアイデアコンテスト」（大分大学経済学部）などの各種団体や大学が主催するコンテストがあります。				
選 抜 方 法 等	大学入学共通テストと個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選抜します。選抜方法は２段階選抜とします。 （１）第１次選考 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物により選抜します。 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物では、高等学校等での学習活動（高大接続関連事業による学習活動を含む。）、課題探究型学習に関わる活動状況や今後の目標、本学入学後の勉学意欲等について評価します。 ※第１次選考の合格者数は、募集人員の３倍程度とします。 （２）第２次選考 第１次選考の合格者を対象に、小論文及び個人面接により選抜します。 小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力を評価します。個人面接では、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的に学習に取り組む態度を評価します。 なお、個人面接では、出願時に提出した「課題探究型学習の成果について」（書式B）のみを用いて学習の内容を５分で発表してもらった後、その内容及び提出書類も参考にして質疑応答を行います。 試験の配点は下記のとおりです。 <table border="1" data-bbox="427 1653 836 1727"> <tr> <td>小論文</td> <td>個人面接</td> </tr> <tr> <td>50点</td> <td>50点</td> </tr> </table>	小論文	個人面接	50点	50点
小論文	個人面接				
50点	50点				
出 願 期 間	令和４年（２０２２年）９月１日（木）～令和４年（２０２２年）９月７日（水）				
選 抜 期 日 （第２次選考）	令和４年（２０２２年）９月２８日（水）				
合格者発表日	令和４年（２０２２年）１１月１日（火）				

【注】所属学科は、入学後、２年次に決定します。

実施学部	理工学部
プログラム名	理工学科 知能情報システムプログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 地域環境科学プログラム 建築学プログラム
募集人員	理工学科 知能情報システムプログラム 5名 電気エネルギー・電子工学プログラム 2名 機械工学プログラム 5名 知能機械システムプログラム 1名 地域環境科学プログラム 2名 建築学プログラム 4名
〔出願資格〕 次の各号に該当する者 (1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降、学年の途中において卒業と認められた者を含む。） (2) 合格した場合は、入学することを確約できる者 (3) 次表の各プログラムの掲げる出願要件を満たす者	
知能情報システムプログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の情報又は計算機に関する工業系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、情報又は計算機に関する教科・科目8単位以上を含む工業に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者
電気エネルギー・電子工学プログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の電気又は電子に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、工業に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者
機械工学プログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の機械又は電気に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、工業に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者
知能機械システムプログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の機械系、電気系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、機械、電気に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者
地域環境科学プログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の環境系又は土木系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、環境又は土木に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者
建築学プログラム	(1)本プログラムへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の建築系又は土木系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、建築又は土木に関する教科・科目を20単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者

総合型選抜

選抜方法等

- (1) 第1次選考
 自己推薦書、調査書及び活動報告書により選考を行います。
 自己推薦書及び調査書では、高等学校等での学習及び出席状況や、今後の目標、本学入学後の勉学意欲などについて評価します。
 活動報告書では、卒業製作、課外活動、生徒会活動、ボランティア活動のほか各種オリンピック、チャレンジ、グランプリ等への参加などの諸活動の状況や各種資格の取得、ジュニアマイスター顕彰、各種表彰などの実績を評価します。
 ※第1次選考の合格者数は、各プログラムとも募集人員の3倍程度とします。

- (2) 第2次選考
 第1次選考に合格した者に対して、面接で試問を行うとともにプログラムによっては基礎的な筆記試験を課します。面接は集団面接又は個人面接で行い、提出書類も参考にして、志望するプログラムやそれに関わる分野への関心・意欲・理解を評価するとともに積極性、自己表現力を評価します。また、志望するプログラムで必要となる、高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する筆記試験又は試問も含みます。なお、**建築学プログラム及び知能情報システムプログラム知能情報システムプログラム、地域環境科学プログラム及び建築学プログラム**では、面接に先立って、高等学校等で学習する内容に関する学力及び科学的思考能力を判定する基礎的な筆記試験を行います。また、集団面接ではグループディスカッションは行いません。

各プログラムの内容は次表のとおりです。

プログラム	検査項目
知能情報システムプログラム	面接と筆記試験
電気エネルギー・電子工学プログラム	面接
機械工学プログラム	面接
知能機械システムプログラム	面接
地域環境科学プログラム	面接と筆記試験
建築学プログラム	面接と筆記試験

配点は以下のとおりです。

自己推薦書	調査書	活動報告書	面接、筆記試験	合計
50	50	150	250	500

出願期間 令和4年（2022年）9月26日（月）～令和4年（2022年）9月30日（金）

選抜期日（第2次選考） 令和4年（2022年）10月26日（水）

合格者発表日 令和4年（2022年）11月8日（火）

総合型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）

※本学の総合型選抜Ⅱに出願した者は、本学の学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課す）に出願することはできません。

〔教育学部〕

〔総合型選抜Ⅱ〕

実施学部 課程・コース名	教育学部 学校教育教員養成課程・初等中等教育コース																						
募集人員	10名：「教科の試験」の各教科〔音楽、美術、保健体育、技術、家庭〕の選択者から、それぞれ2名程度																						
〔出願資格〕 次の各号に該当する者。 (1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）。 (2) 大学入学共通テストの本学が指定する教科・科目を受験する者。 (3) 合格した場合は入学することを確約できる者。																							
選抜方法等	<p>「大学入学共通テスト」、「教科の試験」、「個人面接」及び提出書類を総合して選抜します。 配点は以下のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>大学入学共通テスト</th> <th>教科の試験</th> <th>個人面接</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>600 (200×3教科)</td> <td>600</td> <td>300</td> <td>1500</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 大学入学共通テスト 以下の表の5教科（地歴・公民は1教科とみなします）から任意の3教科を受験してください。4教科以上を受験した場合は、高得点の3教科の成績を利用します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>「国」</td> </tr> <tr> <td>地歴・公民</td> <td>「世A」「世B」「日A」「日B」 「地理A」「地理B」「現社」「倫」「政経」「倫・政経」 } から2※1</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」「簿」「情報」から1 } の2※2</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>①「物基」「化基」「生基」 「地基」から2と 「物」「化」「生」「地学」から1 } の3※3 } ①、②のいずれかを ②「物」「化」「生」「地学」から2 } 選択</td> </tr> <tr> <td>外国語</td> <td>「英」「独」「仏」「中」「韓」から1 ※4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 「地歴・公民」では同一名称を含む科目を組み合わせ受検することはできません。</p>			大学入学共通テスト	教科の試験	個人面接	合計	600 (200×3教科)	600	300	1500	教科	科目	国語	「国」	地歴・公民	「世A」「世B」「日A」「日B」 「地理A」「地理B」「現社」「倫」「政経」「倫・政経」 } から2※1	数学	「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」「簿」「情報」から1 } の2※2	理科	①「物基」「化基」「生基」 「地基」から2と 「物」「化」「生」「地学」から1 } の3※3 } ①、②のいずれかを ②「物」「化」「生」「地学」から2 } 選択	外国語	「英」「独」「仏」「中」「韓」から1 ※4
大学入学共通テスト	教科の試験	個人面接	合計																				
600 (200×3教科)	600	300	1500																				
教科	科目																						
国語	「国」																						
地歴・公民	「世A」「世B」「日A」「日B」 「地理A」「地理B」「現社」「倫」「政経」「倫・政経」 } から2※1																						
数学	「数Ⅰ・数A」と 「数Ⅱ・数B」「簿」「情報」から1 } の2※2																						
理科	①「物基」「化基」「生基」 「地基」から2と 「物」「化」「生」「地学」から1 } の3※3 } ①、②のいずれかを ②「物」「化」「生」「地学」から2 } 選択																						
外国語	「英」「独」「仏」「中」「韓」から1 ※4																						

	<p>※2 「簿」及び「情報」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。</p> <p>※3 「理科」において①を選択した場合、同一名称を含む科目を組み合わせて受験した場合は、総合型選抜の成績としては利用できません。</p> <p>※4 「英語」にはリスニングを含みます。リスニングを受験しなかった場合は、受験資格はありません（リスニングを免除された者は除く）。大学入学共通テスト「英語」はリーディング100点、リスニング100点、合計200点の配点となっていますが、リーディング160点、リスニング40点、合計200点満点に換算して配点します（リーディングとリスニングの比率は4：1）。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を200点満点に換算して利用します。</p> <p>(2) 教科の試験 出願時に「音楽」、「美術」、「保健体育」、「技術」、「家庭」から1つを選択してください。試験では、当該教科の能力及び当該教科の教員としての適正などを評価します。各教科の試験内容は68～71ページに記載しています。</p> <p>(3) 個人面接 複数の面接委員により、初等中等教育コースへの関心、意欲、理解力及び自己表現力などを評価します。</p> <p>(4) 提出書類 出願時に「調査書」、「自己推薦書」、「活動報告書」を提出してください。提出書類は「教科の試験」及び「個人面接」の参考にします。</p> <p>【注意事項】</p> <p>(1)「教科の試験」で選択した教科ごとに総合成績で合否判定をします。それぞれの教科において同点者がいる場合は、大学入学共通テストの高得点者を高順位とします。</p> <p>(2) 大学入学共通テストの得点が、他の受験者と比べて著しく低い場合は、総合得点に関わらず不合格とします。</p> <p>(3)「教科の試験」又は「個人面接」の評価が著しく低い場合には、総合得点に関わらず不合格とします。</p>
出願期間	令和4年（2022年）11月1日（火）～4日（金）
選抜期日	令和4年（2022年）11月19日（土）
合格者発表日	令和5年（2023年）2月14日（火）
その他	本学の学校推薦型選抜Ⅱとの併願はできません。

「教科の試験」の各教科の試験内容

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、試験内容を変更する可能性があります。また、試験当日、試験場内での検温等により受験の可否を判断する場合があります。

【音楽】

実技及びプレゼンテーションにより総合的に評価します。実技では課題曲の演奏により、音楽の技能、表現力などを評価します。プレゼンテーションでは自己表現力、音楽科の教育への意欲などを評価します。

(1) 実技

以下の①、②の課題曲を演奏してください。検査室への楽譜（紙媒体）の持込みは可能です。

① モーツァルト又はベートーヴェンのピアノ・ソナタの第1楽章

任意に選んで、反復なしで演奏をしてください。ただし、次の曲は除きます。モーツァルトのピアノ・ソナタ KV 282、及びベートーヴェンのピアノ・ソナタ Op. 27-2、Op. 101、Op. 106、Op. 109、Op. 110、Op. 111。選択したピアノ・ソナタの作曲者、作品番号等は出願書類に記入してください。使用する楽譜の版は問いません。

② 江間章子 作詞／中田喜直 作曲《夏の思い出》

ピアノで弾き歌いをしてください（1番のみ）。なお、10小節目からは主旋律を歌い、17小節目から2番かっこに進んでください。楽譜は、中学校（音楽）の教科書に掲載されているものを使用してください。

(2) プレゼンテーション

実技の課題曲について、どのような意図をもって演奏に取り組んだのかを説明してもらいます（5分程度）。説明の中でピアノ演奏をしたり歌ったりしてもかまいません。その後で、説明内容や実技の演奏、提出書類などに基づく質疑応答を行います。

【美術】

実技及びプレゼンテーションにより総合的に評価します。実技では水彩による自由表現により発想力、基本的な造形能力、色彩表現能力を評価します。プレゼンテーションでは、創作意欲や学業に対する意欲、美術科の教育への意欲などを評価します。

(1) 実技

水彩による表現を行います。制作時間は2時間です。

サイズ：四つ切り画用紙（画用紙は試験場で用意します）

持参用具：筆記用具、水彩用具一式（アクリル絵具も可）

(2) プレゼンテーション

持参作品*と、実技試験の作品及びその制作過程についてプレゼンテーションをしてもらいます。その後、プレゼンテーションや提出書類に基づく質疑応答を行います（時間は、質疑応答を合わせて、1人当たり 20 分程度を目安としますが、受験者数によって変更する可能性があります）。

*持参作品について

- ・次の2点を試験当日、持参して提出してください。
 - 1) 平面又は立体作品 1 点
 - 2) デッサン 1 点 (B3 サイズ以上)
- ・1)、2)とも、中学校卒業以降に制作されたものとします。
- ・作品とともに、受験生本人が中学校卒業以降に制作したことを証明する作品証明書を作成し、作品の裏面・背面等に貼付してください（作品証明書の書式は出願時に大学ホームページからダウンロードしてください）。
- ・1)、2)とも、受験者が単独で搬入出できるものとします（搬入口は高さ 200 cm×幅 170 cm）。なお、試験当日は、所定の駐車場から搬入口まで直接、車で乗り入れることはできません。
- ・持参作品は評価の参考とするため写真撮影等の記録を行い、プレゼンテーション終了後に返却します。

【保健体育】

プレゼンテーション及び実技により総合的に評価します。プレゼンテーションでは、スポーツや健康、教育への意識や理解度及び実践度などとともに、保健体育科の教育への意欲を評価します。実技では、陸上運動、球技、器械運動の基本的技能を評価します。

(1) プレゼンテーション

これまでの経験や活動等について説明をし、また、その場で与えた課題に対するプレゼンテーションを行います（プレゼンテーションにはパフォーマンスを含めてもかまいません）。さらに、教育や保健体育に関する今日的課題等に関する質問や、提出書類に基づく質問をします。

(2) 実技（プレゼンテーションの後、当日の受験者数に応じて適宜、軽食時間又は休憩時間をはさんで実施します。）

個人種目と集団種目から1種目ずつ選択し、合計2種目で実施します（表1）。受験種目は出願時に選択します（試験当日の変更は認めません）。

表1 実技試験の種目

個人種目	陸上運動	} どちらか1種目を選択
	器械運動	
集団種目	バレーボール	} どちらか1種目を選択
	バスケットボール	

*持参するものについて

- ・実技は屋外（土のグラウンド）と屋内（体育館）で実施しますので、表2に示すものを各自で持参してください（忘れ物に対しては、試験場は貸与等の救済措置をしません。忘れ物がないように気を付けてください）。

表2 実技試験のために受験者が各自で用意するもの

屋内用シューズ	バレーボールやバスケットボールの専用シューズも可
屋外用シューズ	陸上競技用シューズも可（スパイクは不可）
着替えなど	実技試験用のウェアなど運動時に必要な衣服、タオルなど
補水用の飲料	茶やミネラルウォーターの他、電解質入り飲料などは可
プロテクターなどの補助器具	鉄棒用のみ可（各自で必要な場合のみ）
テーピング	損傷部位の保護や予防として、処置を可とする（指、手首など）

*以上のほか、必要と思われる物は持参してよい。ただし、物により、不許可になる場合がある。

- ・雨天時、陸上運動については、屋内で実施します。
- ・当日は新型コロナウイルス感染症への対応のため、運動中でもマスク着用を義務付ける場合があります。運動中でも着用できるマスクを用意してください。
- ・貴重品などは原則として個人で管理してください。

【技術】

実技及びプレゼンテーションにより総合的に評価します。実技では、技術科教育に関わる課題解決力と思考力・判断力・表現力等を評価します。プレゼンテーションでは他者へ伝える力やコミュニケーション力、技術科の教育への意欲を評価します。

（1）実技

社会や生活に存在する技術的な課題解決や工夫・創造などに基づいた構想・設計に関する出題を行います。必要なものは、筆記用具（HB 又は B の黒鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り）です。

（2）プレゼンテーション

実技で解答した内容に基づいて発表を行った後、その内容について質疑応答を行います。また提出書類を参考にして、志望動機や技術科教育に対する意欲についても質疑応答を行います。

【家庭】

プレゼンテーションにより生活や家庭科への関心・意欲・理解、課題改善のために必要な思考力・判断力・表現力等を評価します。さらに、家庭科の教育への意欲についても評価します。

(1) プレゼンテーション

提出書類の「活動報告書」に記載した「中学校卒業以降、高等学校等で取り組んだ生活や家庭科に関する課題探究的な学習・活動の成果」の内容について、ポスター発表をしてもらいます。事前に作成したポスター*を試験当日に持参し、そのポスターを用いて5分間で発表してください。その後、発表内容や提出書類に基づいて質疑応答を行います。

*ポスターについて

- ・ポスターはA0（ゼロ）サイズ・1枚とします。書式は自由です。
- ・発表内容に関わる成果物等があれば、当日持参し、プレゼンテーションに用いてもかまいません。
- ・ポスター等は、評価の参考とするため写真撮影等の記録を行い、プレゼンテーション終了後に返却します。

実施学部 学科名	医学部医学科									
募集人員	25名（一般枠22名、地域枠3名） ※地域枠の募集人数についてはiiiページを参照									
〔出願資格〕 〔一般枠〕	<p>高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和3年（2021年）3月以降に卒業した者及び令和5年（2023年）卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。</p> <p>（1）高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 ※①に該当する者については、調査書に①と表示してください。</p> <p>（2）臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者</p> <p>（3）合格した場合は、入学することを確約できる者</p>									
〔地域枠〕	<p>上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者 <p>※ 一般枠と地域枠との併願は認められません。</p> <p>※ 今年度のへき地医療拠点病院体験活動（地域枠のみ）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課しますので、出願時に提出してください。</p>									
選抜方法等	<p>（1）第1次選考 一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠、地域枠ともに募集人員の約2.5倍）を行い、第2次選考の対象者を決定します。</p> <p>（2）第2次選考 一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書、課題小論文（地域枠のみ）及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。 なお、同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。 実施教科・科目等及び配点</p>									
	大学入学共通テストの利用教科・科目名		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等	試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	面接	合計
	国	国	共通テスト	100	50	50×2	50×2	100		450
	地歴 公民	世B、日B、地理B 倫・政経 } から1	個別学力検査等						300	300
	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B } の2	計	100	50	100	100	100	300	750
理	物、化、生から2									
外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕									
【注1】	「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、 出願資格を満たさない こととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。									
【注2】	「英語」はリスニングを含みます。リーディングとリスニングの双方を受験してください（リスニングを免除された者は除く）。「英語」の成績は、リーディング100点とリスニング100点の合計200点満点とします（リーディングとリスニングの比率は1：1）。なお、入学者選抜の配点に当たっては、上記の表に記載している大学入学共通テストの外国語の配点に換算します。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を200点満点に換算して利用します。									
【注3】	本学では令和5年度（2023年度）の入学試験において、令和4年度以前の大学入学共通テスト及び大学入試センター試験の成績は利用しません。									
出願期間	令和4年（2022年）11月1日（火）～令和4年（2022年）11月4日（金）									
選抜期日 （第2次選考）	令和5年（2023年）2月12日（日） 午前の部 9：00～ 午後の部 13：00～									
合格者発表日	令和5年（2023年）2月14日（火）									
その他	地域枠で入学した学生全員に、大分県医師修学資金が貸与されます。大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となり、同プログラムに基づき、大分県知事の指定する医療機関において、貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合、全額返還を免除します。									

実施学部 学科 コース名	福祉健康科学部福祉健康科学科
	理学療法コース
	心理学コース
募集人員	理学療法コース 5名 心理学コース 8名

〔出願資格〕

高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和3年（2021年）3月以降に卒業した者及び令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。

【理学療法コース】

- (1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者
※㉠に該当する者については、調査書に㉠と表示してください。
- (2) 理学療法コースへの専攻の意思が強く、リハビリテーションに関する専門知識や技能を生かし、社会に貢献したいという強い意思と適性を有する者
- (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者

【心理学コース】

- (1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者
※㉠に該当する者については、調査書に㉠と表示してください。
- (2) 心理学コースへの専攻の意思が強く、心理学に関する専門知識や技能を生かし、社会に貢献したいという強い意思と適性を有する者
- (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者

大学入学共通テスト、個別学力検査（小論文、面接）及び提出書類を総合して選抜します。

【理学療法コース】

1. 個別学力検査

小論文と個人面接を行います。小論文では、特に思考力、判断力、表現力と地域や現代社会への関心を評価します。個人面接では、特に主体性、協働性、意欲、積極性、コミュニケーション力、リーダーシップを評価します。調査書と自己推薦書は、参考資料として用います。

2. 大学入学共通テスト

知識・技能を評価するために5教科7～8科目により行います。特に数学・理科の能力を高く評価します。

3. 配点

大学入学共通テストの利用教科・科目名		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								
教科	科目名等	試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	個人 面接	合計
国	国	大学入学 共通テスト	100	50	100×2	③50×2+100 ④100×2	200			750
地歴 公民	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B 現社、倫、政経、倫・政経	個別学力 検査等						100	250	350
数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1		計	100	50	200	200	200	100	250
理	③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 ※2 ④物、化、生、地学から2									
外	英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7～8科目〕									

※1 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。

※2 「理科」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、出願資格を満たさないこととなります。

<p>【心理学コース】</p> <p>1. 個別学力検査 小論文、個人面接及びグループディスカッションを行います。小論文では、特に思考力、判断力、表現力と地域や現代社会への関心を評価します。個人面接及びグループディスカッションでは、特に主体性、協働性、意欲、積極性、コミュニケーション力、リーダーシップを評価します。調査書と自己推薦書は、参考資料として用います。</p> <p>2. 大学入学共通テスト 知識・技能を評価するために5教科7～8科目又は6教科7～8科目により行います。全教科の能力を総合的に評価します。</p> <p>3. 配点</p>											
大学入学共通テストの利用教科・科目名					大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等						
教科	科目名等	試験の区分	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	小論文	個人 面接	グループ ディス カッ ション	合計
国	国	大学入学 共通テスト	100	(50×2) (50)	50×2	①(25×2) ②(50) ③(25×2+50) ④(50×2)	100				450
数	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B、簿、情報から1 } の2	個別学力 検査等						200	250	200	650
		計	100	100 50	100	50 100	100	200	250	200	1100
地歴 公民 理	世A、世B、日A、日B、 地理A、地理B } から1又は2 現社、倫、政経、倫・政経 } ※4 ①物基、化基、生基、地基から2 } ※3 ②物、化、生、地学から1 } ③物基、化基、生基、地基から2と 物、化、生、地学から1 } ※5 ④物、化、生、地学から2 }										
外	英、独、仏、中、韓から1 [5教科7～8科目又は6教科7～8科目]										
<p>※3 「地理歴史」及び「公民」の科目から2教科と「理科」の①もしくは②、又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④</p> <p>※4 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。</p> <p>※5 「理科」において、同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は、「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみ使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は、出願資格を満たさないこととなります。</p>											
<p>【注意事項（理学療法コース・心理学コース共通）】</p> <p>(1) 大学入学共通テストの合計点（傾斜後の得点）が約 50%以下の場合には、総合得点に関わらず不合格とします。</p> <p>(2) 個人面接及びグループディスカッションの得点がそれぞれ 20%以下の場合には、総合得点に関わらず不合格とします。</p> <p>(3) 同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者を高順位とします。</p> <p>(4) 「英語」はリスニングを含みます。リーディングとリスニングの双方を受験してください（リスニングを免除された者は除く）。「英語」の成績は、リーディング 160 点とリスニング 40 点の合計点（200 点満点）とします（リーディングとリスニングの比率は 4 : 1）。なお、入学者選抜の配点に当たっては、上記の表に記載している大学入学共通テストの外国語の配点に換算します。ただし、リスニングを免除された者については、リーディングの得点を 200 点満点に換算して利用します。</p> <p>(5) 本学では令和 5 年度（2023 年度）の入学試験において、令和 4 年度以前の大学入学共通テスト及び大学入試センター試験の成績は利用しません。</p> <p>(6) 志願者が多く、1 日で全ての試験を実施することができない場合は 2 日間で行うことがあります。なお、試験を 1 日で実施するか、2 日間で実施するかについては、令和 4 年（2022 年）10 月 13 日（木）までに大分大学ホームページ（https://www.oita-u.ac.jp）でお知らせします。</p>											
出願期間	令和 4 年（2022 年）9 月 1 日（木）～令和 4 年（2022 年）9 月 7 日（水）										
選抜期日	令和 4 年（2022 年）11 月 16 日（水）（志願者多数の場合、翌日も試験を行うことがあります）										
合格者発表日	令和 5 年（2023 年）2 月 14 日（火）										

帰国生徒選抜

実施学部 学科等名	経済学部		理工学部	
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	【注】	物理学連携プログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 建築学プログラム 数理科学プログラム 知能情報システムプログラム 生命・物質化学プログラム 地域環境科学プログラム	
募集人員	若干名（定員内）		若干名（定員内）	
<p>〔出願資格〕</p> <p>（経済学部） 日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、保護者の海外勤務等やむを得ない事情により海外に移住し、次の1～5いずれかに該当する者です。</p> <p>（理工学部） 日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、保護者の海外勤務等やむを得ない事情により海外に移住し、次の1～5いずれかに該当し、かつ、英語能力試験の「TOEIC L&R と S&W の両方」又は、「TOEFL iBT」を2021年1月6日以降に受験している者です。</p> <p>（1）外国の正規の学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育期間を含みます。）を2021年4月1日から2023年3月31日までに卒業（修了）した者又は卒業（修了）見込みの者で、外国において最終の学年を含め2年以上継続して正規の学校教育を受けているもの ただし、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において学校教育を受けた期間とはみなしません。</p> <p>（2）外国及び国内において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を2021年又は2022年に授与された者</p> <p>（3）外国及び国内において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2021年又は2022年に授与された者</p> <p>（4）外国及び国内において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を2021年又は2022年に授与された者</p> <p>（5）外国及び国内において、英国において大学入学資格として認められているGCE-A レベル資格を2021年又は2022年に授与された者</p> <p>※GCE-A レベル資格の科目数等に関する要件：GCE-A レベル試験において1科目以上合格（E 評価以上）</p>				
選抜方法等	経済学部	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。		
	理工学部	プログラム	理科	数学
		物理学連携プログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 建築学プログラム	「物理基礎・物理」	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率、図形の性質」 ※数学Bは「数列、ベクトル」
		数理科学プログラム 知能情報システムプログラム 生命・物質化学プログラム 地域環境科学プログラム	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 } から1	
出願期間	令和5年（2023年）1月4日（水）～1月6日（金）			
選抜期日	令和5年（2023年）1月25日（水）			
合格者発表日	令和5年（2023年）2月17日（金）			

【注】所属学科は、入学後、2年次に決定します。

社会人選抜

〔経済学部〕

〔社会人選抜〕

実施学部 学科名	経済学部
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科
募集人員	若干名（定員内）
<p>〔出願資格〕</p> <p>令和5年（2023年）4月1日現在で、下記1～3に示すいずれかの基礎資格取得後、社会人経験を5年以上有する満23歳以上の者です。</p> <p>なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制、夜間又は通信制の学校（大学を含む。）に在学した期間が含まれます。</p> <p>（1）高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者 （2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者 （3）学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>	
選抜方法等	大学入学共通テスト及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。
出願期間	令和5年（2023年）1月4日（水）～令和5年（2023年）1月6日（金）
選抜期日	令和5年（2023年）1月25日（水）
合格者発表日	令和5年（2023年）2月17日（金）

【注】所属学科は、入学後、2年次に決定します。

〔医学部〕

〔社会人選抜〕

実施学部 学科名	医学部看護学科
募集人員	若干名（定員内）
<p>〔出願資格〕</p> <p>次の各号のいずれかに該当する者のうち、令和5年（2023年）4月1日現在、社会人経験4年以上を有する年齢25歳以上の者で、合格した場合は、入学することを確約できるもの</p> <p>なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制又は通信制の高等学校に在学した期間を含みます。</p> <p>（1）高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者</p> <p>（2）通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>（3）学校教育法施行規則第150条（第6号を除く。）の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>	
選抜方法等	大学入学共通テストを免除し、出願書類、小論文及び面接を総合評価の上、合格者を決定します。
出願期間	令和4年（2022年）7月11日（月）～令和4年（2022年）7月15日（金）
選抜期日	令和4年（2022年）8月19日（金）
合格者発表日	令和4年（2022年）9月12日（月）

私費外国人留学生選抜

	経済学部	理工学部
実施学部 学科等名	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	物理学連携プログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 建築学プログラム 数理科学プログラム 知能情報システムプログラム 生命・物質化学プログラム 地域環境科学プログラム
募集人員	若干名（定員内）	若干名（定員内）
〔出願資格〕 経済学部：次の1及び2を全て満たしていること。 理工学部：次の1、2及び3を全て満たしていること。 (1) 日本国籍を有しない者で、外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び2023年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ただし、出願時点で日本の国籍と外国の国籍を有する者（いわゆる二重国籍）については、入学手続完了期日までに日本国籍を離脱していることを条件として、日本国籍を有しない者として扱います。詳細は大分大学入試課までお問い合わせください。 (2) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（2021年度の第1回、第2回又は2022年度の第1回、第2回の成績の利用を可とするが、複数回受験した者は、出願時にいずれかを指定すること）を受験し、学部ごとに下記の要件を満たしている者 (経済学部) 下記の経済学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」の総得点が180点以上であること、及び総合科目と数学の得点の合計が200点以上であること。 (理工学部) 下記の理工学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」、「記述」の総得点が5割以上であること。 (3) 英語能力試験の「TOEIC L&R と S&W の両方」又は、「TOEFL iBT」を受験していること。ただし、2021年1月6日以降に受験した試験に限る。		

日本留学試験で課す科目について

学部	学科等	利用科目	数学の選択	理科の選択	出題言語
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	日本語 総合科目 数 学	コース1 (文系)	(該当なし)	日本語 又は 英 語
理工学部	物理学連携プログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 建築学プログラム 数理科学プログラム 知能情報システムプログラム 生命・物質化学プログラム 地域環境科学プログラム	日 本 語 理 科 数 学	コース2 (理系)	物理 } 化学 } から 2 科目 生物 }	日本語 又は 英 語

本学で実施する学力検査等について

学部	学 科 等	検 査 項 目
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科 【注】	数学又は英語から1教科 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ」 英語 「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」 小論文 面接
理工学部	物理学連携プログラム 電気エネルギー・電子工学プログラム 機械工学プログラム 知能機械システムプログラム 建築学プログラム	理 科 「物理基礎・物理」 数 学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率、図形の性質」 ※数学Bは「数列、ベクトル」 面接
	数理科学プログラム 知能情報システムプログラム 生命・物質化学プログラム 地域環境科学プログラム	理 科 「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 } から1科目 数 学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率、図形の性質」 ※数学Bは「数列、ベクトル」 面接

【注】所属学科は、入学後、2年次に決定します。

出 願 期 間	令和5年（2023年）1月4日（水）～1月6日（金）
選 抜 期 日	令和5年（2023年）1月25日（水）
合格者発表日	令和5年（2023年）2月17日（金）
選 抜 方 法 等	日本留学試験並びに本学で実施する学力検査等（上記）及び出願書類を総合して選考します。 なお、理工学部では、上記と併せて、英語能力試験の「TOEIC L&R と S&W の両方」又は、「TOEFL iBT」の成績も選考に利用します。

障がいのある者等の事前相談

障がいを有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項にて公表します。ただし、期限後に不慮の事故等により障がいのある状態になったときには、その時点で速やかに申し出てください。

申出期限経過後でも可能な限り相談に応じますが、十分な対応ができない場合もあります。

(2) 申出方法

申請書（診断書等必要書類添付）を提出してください。必要な場合は、本学において、志願者本人又はその立場を代弁しうる関係者等との面談を行います。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

災害で被災した者等の入学検定料等の免除及び修学上の特別な配慮について

災害に関する特別措置（入学検定料等）につきましては、本学ホームページ（<https://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/important.html>）でお知らせします。

入試過去問題の使用について

大分大学は、「入試過去問題活用宣言」に参加を表明しています。ただし、出題科目である「数学」と「小論文」は参加しません。

(1) 本学のアドミッション・ポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学で過去に出された問題を使用して出題することがあります。

なお、過去問題は必ず使用するとは限りません。

(2) 入試過去問題を使用して出題する場合は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、入試過去問題を使用した場合は、入学試験終了後、受験者に分かる形で使用過去問題を公表します。

(3) 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧は、次のホームページにて公表しています。
<http://www.nyushikakomon.jp/>

令和4年度（2022年度）一般選抜合格者の成績

【前期日程】

学 部	学科・コース	募集人員	合格者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育学部	初等中等教育コース	65	68	1200	869.55	721.00	757.03
	特別支援教育コース	3	3	1200			
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	120	150	1000	704.20	547.70	592.85
医学部	医学科（一般枠）	55	56	1000	822.50	671.00	717.76
	医学科（地元出身者枠）	10	10	1000			
	看護学科	35	40	650	507.83	377.33	408.92
理工学部	機械コース	47	48	1025	628.00	501.75	543.90
	電気電子コース	52	53	1025	623.25	512.00	540.24
	福祉メカトロニクスコース	18	20	1025	598.75	500.75	529.71
	建築学コース	35	37	1025	687.75	518.50	570.63
	数理科学コース	15	17	1025	624.25	530.50	566.56
	知能情報システムコース	40	41	1025	826.75	535.25	580.84
	自然科学コース	12	13	1025	629.50	526.00	568.48
	応用化学コース	38	43	1025	646.25	525.00	573.90
福祉健康科学部	理学療法コース	22	24	1300	890.40	792.20	824.47
	社会福祉実践コース	23	26	1300	906.60	762.80	821.60
	心理学コース	27	30	1300	935.80	823.80	863.98

【後期日程】

学 部	学科・コース	募集人員	合格者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育学部	初等中等教育コース	20	25	1200	861.07	683.27	746.65
	特別支援教育コース	2	2	1200			
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 社会イノベーション学科	80	99	700	571.90	430.80	476.63
医学部	医学科	—	—	—			
	看護学科	10	12	550	363.00	318.17	332.92
理工学部	機械コース	12	16	1100	833.250	627.125	677.420
	電気電子コース	11	14	1100	808.375	628.375	685.800
	福祉メカトロニクスコース	7	9	1100			
	建築学コース	10	13	1100	765.000	712.625	728.460
	数理科学コース	—	—	—			
	知能情報システムコース	10	16	1100	796.500	712.250	746.020
	自然科学コース	3	5	1100			
福祉健康科学部	応用化学コース	10	17	1100	774.750	629.125	693.040
	理学療法コース	3	3	1300			
	社会福祉実践コース	4	4	1300			
	心理学コース	—	—	—			

※追加合格者を除く。

※合格者が10名以内の場合、最高点、最低点及び平均点は非公表。

※経済学部前期日程及び理工学部前期日程の最低点及び平均点には、特色加点（配点20点）を含む。

募集要項（願書）・大学案内の請求方法・インターネット出願受付（一部）

一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜、総合型選抜については、インターネット出願導入に伴い、紙媒体の冊子は作成しませんので、募集要項は、本学ホームページから電子ファイル(PDF形式)をダウンロードして参照してください（公表予定時期は、以下のとおり）。

募集要項（願書）・大学案内の請求方法は、「1. インターネットで請求」、「2. 大分大学に郵送で請求」、「3. 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領」の3つの方法がありますので、いずれかの方法で請求してください。

募集要項等	公表 予定時期	出願受付方法	
		インターネット	紙
一般選抜学生募集要項	12月上旬	◎	
学校推薦型選抜学生募集要項	10月上旬	◎	
教育学部総合型選抜学生募集要項	10月上旬	◎	
経済学部総合型選抜学生募集要項	6月下旬	◎	
医学部医学科総合型選抜学生募集要項	8月	◎	
理工学部総合型選抜学生募集要項	8月下旬	◎	
福祉健康科学部総合型選抜学生募集要項	7月	◎	
特別選抜学生募集要項（帰国生徒・社会人・私費外国人留学生） ※医学部看護学科社会人選抜を除く	12月上旬		◎
医学部看護学科社会人選抜学生募集要項	6月下旬		◎
大学案内（受験者向けパンフレット）	6月中旬		

※医学部看護学科社会人選抜学生募集要項については、「1. インターネットで請求」での請求ができません。

1. インターネット（テレメール又はモバっちょ）で請求

次の2つのサービスのいずれかを利用して、募集要項及び大学案内を請求することができますので、パソコンから下記URLにアクセスするか、携帯電話・スマートフォンで下記バーコードを読み取ってそれぞれのサイトにアクセスして請求をしてください。なお、請求方法の詳細は、各サイトの指示に従ってください。

	パソコンから請求	スマートフォンから 請求
テレメール	https://telemail.jp	
	※テレメールでの資料請求に関するお問合せ先 テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9:30~18:00)	
モバっちょ	https://djc-mb.jp/oita-u3/	
	※モバっちょでの資料請求に関するお問合せ先 TEL 050-3540-5005 (平日 10:00~18:00)	

※本学ホームページ (<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/05shiryo.html>) にアクセスし、各サービスのボタンをクリックして、各サイトに移動することもできます。

※資料の送付状況等についての問合せは、本学では対応できませんので、それぞれの問合せ先に電話をしてください。

2. 大分大学に郵送で請求

募集要項を郵送する際に必要な郵便料金分（下記【郵便料金一覧】参照）の切手を貼り、申込者の郵便番号、住所、氏名を記入した角形2号の返信用封筒を、本学への往信用封筒に同封し、下記宛に郵送で請求してください。

往信用封筒の表には、「大学案内請求」、「医学部看護学科社会人選抜学生募集要項請求」等の請求する資料名を正確に朱書きするとともに、連絡のつく電話番号を同封してください。

（資料名が不明確な場合や資料が配布開始前の場合の問合せに利用します。）

※往信用封筒の大きさは、返信用封筒が入ればどのような大きさでもかまいません。

※郵送での請求の場合、原則として本学に返信用封筒が到着した翌日の発送となりますので、学生募集要項等を至急入手する必要がある場合は、テレメール又はモバっちょによる請求を利用してください。

請求先住所	〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学学生支援部入試課 宛
-------	--

【郵便料金一覧】

募集要項等	普通料金（円）	速達料金（円）
特別選抜学生募集要項（帰国生徒・社会人・私費外国人留学生選抜）	250	510
医学部看護学科社会人選抜学生募集要項	250	510
大学案内（受験者向けパンフレット）	250	510

※一般選抜、学校推薦型選抜及び各学部総合型選抜の学生募集要項は、インターネット出願の導入のため印刷した冊子体の配布はありません。本学ホームページから電子ファイル(PDF形式)をダウンロードして入手する方法に変わりました。

※郵便料金改定が行われた場合は新料金が適用されます。

3. 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領

学生支援部入試課の窓口で募集要項及び大学案内の配布を行っていますので、本学ホームページ又は電話で必要な資料が配布を開始しているか確認の上、お越してください。

- (1) 配布場所 大分大学学生支援部入試課（大分市大字旦野原 700 番地）
- (2) 配布時間 8:30～17:15（土日、祝日、年末年始、夏季一斉休業期間を除く）
- (3) 問合せ先 電話 097-554-7519

問合せ先

大分大学学生支援部入試課
電話 097-554-7519

入学者選抜試験に関する問合せ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192

おおいたしおおざだんのはる

大分市大字旦野原700番地

TEL 097-554-7471

FAX 097-554-7472

ホームページ <https://www.oita-u.ac.jp/>